

激江



澱江

—第13号—
目次

学問の自由と本学……………玉置 保…2
澱江13号によせて……………藤田敬三…3
会員の皆さんへ……………渡辺達好…3

大阪経済大学学園だより
受験者数も年々増加……………4

同窓会本部だより
会員数三万人をこえる……………5

同窓会支部だより
東播磨支部が新発足……………7
東播磨支部・東京支部・東海支部・京都支部
・奈良支部・姫路支部・岡山支部・高知支部
・北九州支部・南九州支部
同期会 13回
広島支部総会に出席して……………磯野 斉…8

福井孝治先生逝去さる……………13

同窓会をもっと身近なものに
学生と語る——クラブ活動に積極的な援助を……………14

盛会だった就職懇談会
＝会社訪問をもっと積極的に＝……………15

ゼミ短信……………16
岩井ゼミ・稲原ゼミ・喜田ゼミ・倉辻ゼミ
・倉春会・竹林庄太郎ゼミ・玉井ゼミ・永野ゼミ
・浜本ゼミ・藤原ゼミ・松原ゼミ・酒とバラと女の日々……………荒牧博之…18

名簿訂正……………19

北から南から……………22
同窓生短編集・33編

アメシヨンの記……………加藤正秋…24

学歌・逍遙歌……………27

学問の自由と本学

学長事務取扱 玉置 保

憲法第二十三条は、「学問の自由は、これを保障する」と定めていますが、学問の自由は、それが学術研究である点に特殊性があるにしても、憲法第十九条に保障されている思想および良心の自由と、憲法第二十一条に保障されている表現の自由と密接不可分の関係にあり、内面的思想・良心の自由が、いかに保障されていても、それを外部に表現する自由がなければ、精神的自由はその社会的意味を失い、社会の進展に寄与できないように、学問の自由も、結果発表の自由を包含しなければ無意味であります。すなわち、学問の自由というのは、学問研究の自由と結果発表の自由を意味します。成果発表の場をもたない学問の研究は、それだけでは文化の進展に寄与することはできないわけでありませぬ。

大学自身が自由に研究をすすめるためには、大学における「学問の自由」のとりでとして、「大学の自治」がその前提となることはいくらでもありません。本学は、真理の探究と、その実践に耐えうる人間の形成とを、窮極の目標とする自由な学園であることを理念としており、建学以来、「学問の自由」と、そのとりでとしての「大学の自治」は確立されており、私も及ばずながら、この伝統は、死守していくつもりであります。

学問するということは、端的にいいますと、真実をきわめ、真実を語ることであり、学問の生命は、単なる現状の説明ではなく、未来に連なる批判的態度すなわち所信の表明にあります。学問の成果発表ないし所信の表明機関として、教員諸氏には経大論叢、大学院生諸君には大樽論叢、職員諸氏には着い泉、職場しんぶんなど、学生諸君には大阪経済大学新聞などがあります。数千名の学生諸君にとつて、年一、二回の単位取得

のための試験の答案は、学問の成果の発表といふにはほど遠いものがあり、年数回発行される新聞も代表者の所信表明にすぎません。去る九月十日、問題不況に起因する厳しい就職問題打開の一策として、大阪在住の同窓生の一部の方に来学していただき、就職に関する懇談会を開催致しました。その節、現在の経大生は少しもなしすきではないか、泥縄式の就職試験準備では成功しそうにもない、すなわち試験上手といったことは考えられない、個性を発揮して質問に対して堂々と所信を述べるのが望ましいとの大方のご意見を拝聴しました。

大学教育が普遍化するにつれて、マスプロ化の弊害は、本学においても否定できませんが、教員と学生および学生相互間のコミュニケーションの機会を、できるだけ多くするため、ゼミナールの数を増加し、可及的にマスプロ教育の欠点を補うと同時に、以上の観点から教員指導の下に、その場に於て、学問の成果の発表や所信の表明の機会をできる限り多く与えることが、結局就職問題解決にもつながることを痛感し、今後は、今まより以上にゼミナール教育に重点を置きたいと考えております。前学長福井孝治先生が、去る三月十三日逝去され、六月十九日先生とゆかりの深い法然院で、その

秋冷の候同窓の諸兄には益々御健勝御活躍のことと御慶び申し上げます。

さて本年も例の如く澱江発刊の機を拝借して学園の近況、御報告旁々一言御挨拶をさせていただきます。昨年はおかげで、図書館研究室等の増改築を達成、教学研究面における、能率を顕著に向上することが出来同慶の至りでした。しかし最近の私立大学の規模や施設の一般的水準に照せば本学には尚多くの改善の余地があり、ことに近年の大学学制の改変や社会の大学教育に対する要求や期待に応えつつ、その揺ぎない存立を確保するためには幾多問題点の解決を急ぐ必要がありますので、目下それらの問題整理に鋭意努力中であります。目前に迫った創立五十周年を控えて、同窓各位の日

頃の御厚志に感謝すると共に、この際格別の御支援と御高教を仰ぎたく何卒御願申上げる次第です。

なお、此際差し当り御報告致し置き度い事項として以下の如きものがありますので宜敷く御高承賜わりたく存じます。

澱江13号によせて

理事長 藤田 敬三

先づ本年の景気動向に照して、何よりも就職問題が緊急重大となりますので、先般（九月早々）御多忙の処を御都合の出来ないまま同窓諸君の御足労を乞ひ、色色御教示、御尽力を御願ひ致しましたところ、多数御参集、熱意溢れたる御討議

を頂き多大の成果をおさめました。一言御礼旁々御報告させていただきます。

次に本年三月十三日、予て療養中の本学前学長福井孝治教授が死亡せられ、六月十九日京都東山法然院にて追悼会を開催、先生多年の御尽瘁に対し、深甚の謝意を表し、御冥福を祈りました。多数同窓諸氏の御焼香を頂き感銘の至りでした。

なお、本学理事、監事として多年御協力頂いた浅田敏章氏、甘糟勇雄氏、評議員橋本伝左衛門氏は昨年十一月、本年九月、本年五月逝去せられました。長年の御芳情に深謝し、御冥福を祈りました。本年御退職の教授は藤合謙二先生で、非常勤としては引続き御願ひして居ります。

会員の皆様へ

同窓会理事長 渡辺 達好

日本赤軍派の日航機乗っ取りという恐ろしい事件がおこり、ここ数日は日本政府および国民はもとより、世界中の心ある人々に對しても、多大の恐怖と迷惑をかけ、赤軍派の戦略が那辺にあり、またどれだけ奥深いものであるか等知るべくもありませんが、実に、暗い不愉快極まる事件であります。ただ願わくば、人質にされている多くの人々の無事な釈放を願う外はありません。

さて、全国各地でご活躍の同窓生の皆さん、如何お過ごしでしょうか。月日のたつのは早いもので、昭和五十二年も後三カ月余となりました。また、年に一度の同窓会総会（十一月三日）にも僅か一カ月足らずとなり

ました。昨年一年の間には、皆さん方それぞれの身辺で、色々な出来事もありだっただかと思ひます。とりわけお互いに困っておりますことは、ご承知の通り世界的不況につながりをもつ、日本経済のきびしい経済環境でありましよう。極めて僅かな産業を除けば、ことごとく沈滞しきつた情勢のなかで、四苦八苦低迷を続けているといえましよう。かつて味わった高度成長時代の再来は、到底望むべくもないことは知りながらも、何とか少しでも活況にならないものかと苦慮しているのが本音であります。われわれのような小規模な企業ほど、現下の各種経済的条件に振り回され、敏感に左右されるものはありません。従って現況下では好むと好まざるにかかわらず、如何に切り抜けるかの方法を考え、努力する外に道はないと思ひます。そのためにここで考えねばならないことは、現状経済をどう受けとめてゆくかでありましよう。少くとも現下の不況期が平常の状態であるのだ

と認識すべきものではありませんか。ともかくも安易な経済活動、或いは生活態度は許されないでましよう。前途の予測は全くつきませんが、全国同窓生の皆さん、大いに頑張りましよう。ご健闘を祈ります。

澱江誌も発刊以来十三号となりますが、同窓会の唯一の会報として、母校の実情や同窓会のささやかな活動等をお知らせしているわけであります。

充分のご期待にそえるかどうかかわかりませんが、せめて、かつて皆さんが学ばれた大阪経大の香りでも、かきわけて頂ければと願っております。

本年度も本誌発行に当り、大学関係者ご一同、同窓会事務局、編集部長以下委員の方々のご尽力と、多くの玉稿をお寄せいただきました同窓生の皆さんに對しまして、心から敬意と感謝の意を表したいと思います。皆さんのご健勝とご多幸をお祈りいたします。

（昭和五十二年十月三日記）

昭和52年度 学部 学生数 ()は女子

	1年	2年	3年	4年	計
第1 経済	875(12)	687(14)	1,031(12)	839(18)	3,432(56)
第1 経営	853(36)	744(20)	932(26)	920(20)	3,449(102)
第2 経済	189(2)	147(3)	196(6)	214(5)	746(16)
第2 経営	190(7)	169(2)	155(3)	252(6)	766(18)
計	2,107(57)	1,747(39)	2,314(47)	2,225(49)	8,393(192)

五十二年三月十三日 死亡
教授 福井 孝治教授

五十二年四月一日新採用

経済学部 講師 鶴田 広己 (外国書講読)

経営学部 講師 上田 慧 (外国書講読)

教養部 助教授 西野 証治 (心理学)

教養部 助手 中尾美喜夫 (体育実技)

教養部 助手 山田 裕康 (英語)

教養部 助手 谷 行博 (中国語)

中小企業経営研究所 書記補 黒正 明

数年前より学生諸君の主催する大樟祭とともに、同窓会総会が11月3日(文化の日)母校の東キャンパスで開催されるということは、すっかり定着してしまっている。

昭和51年度同窓会総会は絶好の秋日和に恵まれ、大勢の同窓生が集ってきて盛大に行われた。

藤友会(藤原ゼミ)も久々に、この日に召集し、現役学生ともどもOBたちと旧交を暖め、総会に色どりを添えていた。

受付も恒例となった13回・14回卒業生の美しい奥さま方の協力を得、やさしい指先でピンクのリボンをつけてもらって、先輩も後輩も和気あいあいの気分は受付のテントの中から沸き始めていた。

定刻、C41号教室において、比企事務局長の開会宣言により、昭和51年度同窓会総会が開幕。母校より藤田理事長・玉置学長(事務取扱)先生はじめ、多数の先生方のご臨席を

昭和51年度同窓会総会

昭和51年11月3日(文化の日)

於 母校キャンパス

昭和四十年代には二万人であった同窓生も、今や三万人をこえ広く社会の各分野で活躍中という、まことに慶賀にたえない。反面その把握は並大抵ではない、本部の仕事もそれにつぎるが、住所、職域の変更があれば必ずご一報願いたい。

同窓会本部だより 会員数 三万人をこえる

閲覧室、視聴覚室などを三々五々、エレベーターで本館三階の懇親会場へ。(エレベーターが出来て、四階の同窓会ホールへの道も楽になりました。)

懇親会場では恩師を囲み、所せましと旧友の肩を抱きながら高らかに談笑、思い出話に時のたつのも忘れてコップを傾け、心をこめて用意されたレストラン・バグ(11回榎本能一氏)の立食パーティに舌つづみを打ち、ほんのりと紅顔の同窓生たちがあちこちに屯し、満足げに話つきめ思いつた。ぼつぼつ夕陽の迫るころ、名残惜しみつつ来年の再会を約し、一人一人会場から去り、51年度の総会は無事に幕を降した。

昭和五十年版同窓会名簿の残部が僅少になりました。当分の間、名簿発行の予定がございませんのでお買い求め下さい。申込みは振替用紙をご利用下さい。

名簿

残部が少々になりました

◇名簿(昭和五十年版)代金 一冊 四〇〇〇円

53年度入試要項

1. 学部・学科・入学定員

学部	学科	入学定員
経済学部第1部(昼間部)	経済学科	400名
経営学部第1部(昼間部)	経営学科	400名
経済学部第2部(夜間部)	経済学科	100名
経営学部第2部(夜間部)	経営学科	100名

2. 試験日・科目・時間・配点および試験地

試験日	教科	科目	時間	配点	試験地
経済学部(1・2部) 2月17日(金)	外国語	英語 B	9:30 ~ 10:40 (70分)	150点	大阪 姫路 高松 広島 福岡
		・現代国語 ・古典1乙	11:20 ~ 12:30 (70分)	150点	
経営学部(1・2部) 2月18日(土)	選択科目(1科目)	「政治・経済」、日本史、世界史、地理A、地理Bに簿記を加えた6科目	13:50 ~ 15:00 (70分)	150点 計450点	金沢 名古屋

3. その他

- ① 検定料 15,000円
- ② 11月発行の入学案内書は 共 700円
- ③ 出願期間 1月21日(土)~2月8日(水) 必着
- ④ 合格発表 2月28日(火) 午後2時(予定)

大阪経済大学学園だより 受験者数も順調な伸び

昨年度漸減の傾向を見せて、心配された受験者数も、本年度は順調な伸びを示し、実に一万六千二百名が受験した。また学内人事も一新、新学部長の下、内容の充実に努めていくこととなった。

学内行事

五十二年

4月1日 春期休業

4月7日 入学式

4月8日~9日 新入生オリエンテーション

4月11日 前期講義開始

4月18日 履修登録

6月15日 消防訓練

6月19日 故経済学博士 福井孝治先生追悼法要 (於京都 法然院)

7月3日 故経済学博士 菅野和太郎先生一周忌

7月16日 講義打ち切

7月18日 夏期休業

9月12日 講義再開

9月24日~29日 前期試験

9月30日 本大学創立記念日

10月1日 講義開始

12月20日 講義打ち切

12月21日 冬期休業

五十二年

1月9日 講義再開

1月17日 講義終了

1月19日 学年末試験

2月9日 春期休業

2月17日 入学試験

2月18日 卒業式

3月18日 卒業式

五十二年三月三十一日退職

学長事務取扱 玉置 保教授

経済学部長 浜田 幸策教授

経営学部長 千葉 勇夫教授

教養学部長 北崎 豊二教授

大学院委員長 鈴木 亨教授

図書館長 岡本 正教授

学生部長 岡本 昌夫教授

教務部長 松原和夫助教授

広報部長 浜本 泰教授

就職部長 竹林 祐吉教授

体育館長 浅沼 玄恵教授

総務部長 玉岡 浩

経理部長 内田 三良

財政学 藤谷 謙二教授

体育実技 橋本不二雄助手

事務局長 里地 三平

嘱託 西脇 信良

学内人事

昭和51年度収支決算書

自昭和51年4月1日～至昭和52年3月31日

Table with columns for Income (前会名簿利息総雑借) and Expenses (総役員支事人旅費名簿追跡調査学慶支雑予次), including sub-headers for Budget and Actual amounts.

昭和52年度収支予算表

自昭和52年4月1日～至昭和53年3月31日

Table with columns for Income (前期繰越会費名簿利息総雑借) and Expenses (総役員支事人旅費名簿追跡調査学慶支雑予次), including sub-headers for Budget and Actual amounts.

終りにこの紙面をお借りして、お世話になった大学各部署の職員の方方、ご協力を頂いた同窓生の方々に心からお礼を申し上げます。

名簿 追跡調査

昭和51年3月やっと新名簿を発行したものの、連絡不十分やご回答(返信用はがき)が頂けなかったばかりに、「不明」と処理せざるを得なかった諸兄弟の住所は余りにも数多く、事務局といたしました。今もなお問合わせ、連絡事務など、鋭意原簿台帳の完全記載を目ざして、追跡調査に努めております。その後の

住所変更、勤務先変更も含め、判明し次第、ページの許す範囲で本誌に掲載してゆくつもりであります。諸事情と賢察下さいまして今後ともよろしくご支援下さいませようお願いします。また、卒業回数が異っていてもお知合いの同窓生の住所・勤務先をご存知の方は、ご面倒ながら事務局へご一報下さい。名簿はあと僅かになりましたが、少々残部がございます。ご希望の方はご送金の上申込んで下さい。

理事会開催

◇昭和51年6月25日(土)午後6時
◇ニュー・パレス(新阪急ビル)
山上監事より監査報告

◇議案

- 第一号議案 昭和51年度収支決算について
第二号議案 昭和52年度収支予算案について
第三号議案 昭和53年度会費値上げについて
第四号議案 その他
◇各支部長挨拶
司会 比企事務局長
第一号議案 昭和51年度決算について陰下会計部長より報告。
山上監事より監査報告

第二号議案

昭和52年度予算案について小松総務部長より各項目について説明、質疑応答の結果、満場一致で可決に行うため
② 濶江の増刷発行のため
の二項目を理由として承認、大学側に上提と決定
第四号議案
東播磨支部結成(支部長代理 武川茂夫氏)の報告
総会への案内(恒例通り11月3日)

同窓会支部だより 東播磨支部が新発足

本年度のハイライトは東播磨支部の発足である。名簿の発刊もあって、各支部とも、例年以上に活発に活動されたようである。この調子で支部活動がさらに充実して行くことをお祈りしたい。

東播磨支部

春は名のみの二月六日、待ちに待った東播磨支部(兵庫県明石市、加古川市、高砂市、三木市、小野市、西脇市、加西市、加古郡、印南郡、美薨郡、多可郡)が、二十五番目の支部として、加古川の白亜の殿堂、市民会館で玉置学長、比企事務局長を迎え、盛大に、力強く産ぶ声をあげました。

遠く北播の山々をぬって、水豊かに流れる県下第一の大河加古川の清流が悠々として播磨灘に注ぎ、果しなく続く堤の両側にひらける東播磨の稔り豊かな大平野、海岸には播磨臨海工業の煙突が林立し、近代化学工業の粋を集めた感があります。

いのうちに時の経つのも忘れ、互いに握手をかわし、年一回の総会を楽しみに散会しました。同窓会も年とともに新たになってゆきますが、融和の精神は脈々と生き続けております。そして、濶江会員は誇りを持ち、いつまでも互いに手を携え、一灯一隅を照せば、まさに東播磨の雄として、次の世代の人たちのためにも強い心の支えとなるであります。年々会員を増やし、開けゆく東播磨野のごとく、ますます大きな支部にしてゆきたいと思っております。

し、丁度今年は二十五周年にあたりです。当時、約二十数名の支部会員でしたが、現在は恐らく在京同窓生の数も六一七百名位になっているものと思われまます。小生も民間会社のサラリーマンですが、昭和二十六年に東京支店に転勤して、上京以来、珍しくこの地を離れておりませんので、幸か、不幸か、この二十五年間、支部のお世話をさせていただけました。願えばこの間、いろいろな思い出の連続ですが、多くの同窓諸兄とご交誼願えたのは私にとって「幸」、支部長として行き届いたお世話が出来なかつたことは、支部同窓生にとっては「不幸」と心苦しく思っております。二十五年前、第一回支部総会の席の藤原教授の若々しいお顔が、今でもはっきり思い出されます。(現在もお若いと思えますが)

東海支部

○：東海銀行の最古参支店長と自称される青山貞二さん(十一回)から、このほど挨拶状を頂いた。「この度、ジェット・エア・サービス株式会社へ出向を命ぜられました。銀行在動中は公私にわたり……」というのである。名古屋弁で銀行中にぎやになる万年青年の青山さんが、もうそんなトシか……と感慨無量になる。確か一期下のはずの翠高明さんも同じ銀行の支店長から東海証券株式会社の経理部長として出向中だったなあと思ひ出した。小生と同期の河盛富三さん(十回)など、盛電社々長のイヌをとくに息

て活躍をつづけております先輩、後輩(東播磨卒業生四〇〇名)は、酒造販売業、呉服業、印刷業、サービス業もおれば、銀行員、会社員、学校教師、官吏、市町議会議員と種々雑多、それらの同窓四〇〇名が相い集い(会費三、〇〇〇円)、名刺を交換し歓談するうちに歌もとび出し、校歌、逍遙歌を合唱し、和気あひあ

大阪経済大学同窓会東播磨支部 事務局長 船江 泰明 (第二十三回 折井 全記) 昭和二十七年に東京支部が発足

さて、今年は去る一月二十一日、東京新橋の新橋亭にて、二十五周年支部総会を開催、大学より玉置学長、梅田、浜本両教授、同窓会本部より世良常任理事のご出席を賜り、十六回西山幹事の名司会で、六〇名の同窓諸兄が文字通り賑々しく、楽しい一夜を過しました。

ただ、二、三月になると転勤者が多く出ると考え、一月に開催したわけですが、新年宴会疲れのためか、多少出席者が予想より少なかったのが残念でした。それにもまして、四三〇通の案内状を出して、出欠のご返事をいただけなかったのが二三〇通もあったことがもつと残念なことです、何卒、次回からはこの点もご協力賜りたいことを、紙面を借りてお願いいたします。 当日は、三回卒の諸先輩が在京八名の内、六名もお元気な姿を見せられたり、この二、三年に卒業されたフレッシュマンの方々も、頼もしい活躍振りを披露されたりで、出席者一同、心強く思われたものと推察いたします。 なお、首都圏勤務、在住の同窓諸兄で未連絡の方は 「服部」か 「西山」迄、お電話いただければ幸いです。 (東京支部長 服部 友一)

広島支部では、二月十七、十八の両日が試験日になっているので、本年は前日の十六日に支部総会を開きたいからとの佐々木支部長の案内を受け、お昼過ぎに新大阪駅をたつた。

ついでの間まで、大阪から特急五時間の旅程だった広島も、新幹線のお蔭で全く距離感がなくなり、車窓に飛んで行く景色を眺め続けているうちに広島駅に到着。ここは、新田駅が隣り合せて廊下伝いに旧駅に通じ、市内と直結して便利である。雪が降ったらしくまだ雲は低く、土に汚れた雪の固まりが街のあちこちに残っている、風が冷たい。

総会の時間にはまだ間があるのので、駅前からバスに乗った。たまにしか訪ねることのない広島ではバスに乗ってもまるでお上りさんに等しく、心もとなさが手伝って、運転手さんに話しかけたら、実に気さくな人でよく話してくれた。野球の話、広島球場のことなど話題になっていたが、突然何を

子に譲り、会長として悠々自適中である。

東海地区の大阪経大も、これ以上十年以上の根を張ったのだと嬉しくなる。

〇……年中行事の支部総会は昨年十二月、広小路通り柳橋の「広寿司」で行なった。新名簿のおかげか三七人という空前の同窓生が集まった。本部から渡辺理事長、比企事務局長おそろいで、三重県尾鷲からも石川保治さん(十回)が、特別参加という盛況だった。

奈良支部

五十一年度は、十一月十一日(土)に開催を予定しております。同窓生お誘い合せの上、ご出席をお待ちいたします。

平素のごぶさたをおわびし、同窓生の皆さまのご健闘をお祈り申し上げます。

思ったのか方向転換をしたので驚いていると、どうやら話に夢中になって別の道を行っていたようである。途端に車内から、おぼやちゃんの元気な声がかかった。運転手さん、どこへ行くんかのーまるで観光バスじゃのー、つれの人達らしく五、六人の老人達が、この声につられてどっと笑った。そのどかでおおらかな情景は、と

広島支部総会に出席して

第三回 磯野 斉

でも大阪では期待しても無理に違いない。

例年、経大指定になっている瀬戸内ホテルは、三篠橋のたもと、閑静な環境に所在する。

〇……この支部総会で毎年楽しみにしていることは、何年ぶりか、時には何十年ぶりという懐かしい人にお会いできることだ。

「名古屋・北税務署次長、樋口錦三」という名刺を頂いても、その時はすぐピンとこなかった。

また、古い伝統をもつ奈良の土地に密着して祖先の残された家業に励み老舗として名譽を守っている有名な店の主人も多い。紹介しますと、奈良の有名旅館古都屋の主人山本氏は四回、若主人は三十七回の親子二代、奈良随一のたたみやの福島氏は十一回、御所の砂糖大御間屋「前喜」の主人は十六回の前田氏、宇陀の林業界の雄十九回の吉川氏、酒商の二十一回畑谷氏、奈良蚊帳の大手二十一回の野崎氏、大和高田の毛メリヤスは二十二回の村上氏、田原本で有名な金物店は二十六回の若林氏、御所の製瓶業三十回の中島氏、奈良県下全域を顧客にもつ文具大問屋鍵岡は鍵岡兄弟三十回であり、樞原の福西林業は二十八回の福西氏であります。それに、奈良県随一の肥料問屋川西町の元田肥料の主人は二十九回の快男子元田氏であり、また宇治や静岡以上に品質の良い大和茶の業界は千歳園の池村氏三十七回や三十四回の大東氏によって伝統が引継がれており、大和高田随一のふとん店の主人の勝田氏は三十三回、多武峰の旅館南山荘の主人は三十四回の上杉氏であり、奈良の町で古い老舗として筆墨専門店の支勝堂は三十五回の

この機会に、奈良県支部会員のそれぞれを紹介しますと、伊藤氏(二回)が日本植木の社長、中村氏(三回)が雇用促進事業団の理事吉川氏(三回)が御所市会議員、西村氏(五回)が桜井市教育長、堀氏(五回)が堀林業の社長、中島氏(六

を頂いた。第一回から四十一回卒業に至る同窓生四百七十名の収録である。支部名簿を頂いていつも感じることは、その作製に時間をさかれる役員の数々ならぬご苦労である。名簿の完成は、支部の充実につながり、特に地方では、横の連絡が密になり有形無形に役立つとのことであつたが、本部との連繫にも欠かせぬ大切なことであ

京都支部

同窓会支部役員

定刻六時を過ぎること二十分、佐々木支部長の名コンビ阿須賀會計部長の、司会並びに会計報告により開会。ますます元気な佐々木支部長の挨拶、乾杯、本部現況報告に続いて、松原先生から大学図書館の拡充、入学志願者の急増等大学の現況についてお話があり、広島試験場についても、予想を上

れる時この下宿へ来いといわれ、引越しましたよ、といわれ、薄ぼんやりと思ひ出してきた。当時学校には県人会と呼んだ親睦会があり、上級生も下級生も案外人間関係が深かった。だから二年下でも人なつっこい樋口さんは、なにかと印象的だったが、ともあれ、お互いトシをとりましたね……と三十年を語り合っ

ことしも年末に支部総会が開かれる予定だが、今度はどうなりたい出の人が出席して頂けるか、いまから首を長くしているところである。

この機会に紹介したいものに特別会員なるものがあり、これは他支部に類例をみない奈良支部独特のもので、これは奈良県下に在住もせず、また、奈良県下に勤務もしていないにも拘らず、奈良市部会員と同等の取扱いを受けているもので、いわば奈良支部の熱烈なるファンとでもいうべき者で、京都、大阪、神戸、三重を含めて目下十一名が在籍している現況で、毎年の総会にはいつも七、八名が出席してくれているのが実情であります。この特別会員群のリーダーは十五回の服部氏で、住友商事本社の部長職より、今回住友リースKKの常務に転向して敏腕をふるっています。

次に、支部の事業成績を報告申し上げますと、先ず支部長が数年前から音頭をとって提唱している夫婦奈良旅行招待は年々その数を増し、五十二年が八組、五十二年は七月迄に九組を予定していますので、年末までに十二組を突破する予定で、ほとんどが定年退職を迎えた吾々の仲間が奥さん同伴で奈良、京都を訪れる途中、支部を訪ねてくれるケースのもので、来訪の都度、支部長より連絡を受けた有志によって、吉野、笠置、室生、奈良の案内を受け、同夜は有志宅で参集の支部会員と深夜に至るまで快談し、話のつきるを知らない嬉しさで、皆満足して帰途についてもらっております。また、昨年オープンしました支部のレジャーハウス、紀州生石山荘は、支部会員のレ

この機会に、奈良県支部会員のそれぞれを紹介しますと、伊藤氏(二回)が日本植木の社長、中村氏(三回)が雇用促進事業団の理事吉川氏(三回)が御所市会議員、西村氏(五回)が桜井市教育長、堀氏(五回)が堀林業の社長、中島氏(六

回る受験生増加に悲鳴をあげ、来年度は試験場の変更を迫られるのではないかとの嬉しい報告に一同満足であった。

京都支部

同窓会支部役員

自己紹介は、学校長、会社、銀行重役、新聞社、会計事務所、物産販売自営等々、実に多岐に亘り、同窓生諸君の活動分野はここ広島でも広範で、力強い限りである。酒は灘に劣らぬ地酒の本場、さすがに芳香豊かである。時間の経過と共に、同窓会独自の和やかさが会場に満ち、宴會々酣となるや、誰言うとなぐ学歌斉唱の声あがる。

一同肩を合わせて、腕を組み、青年にかえっての大合唱となる。繰り返し歌われる昭和高校校歌、大唱歌は、あたりにこだまして、その気概の逞まじきは、支部の前途を象徴するようであった。十時半を過ぎる頃、名残りつき宴會も終りを告げ、再会を約して、三々五々会場をあとにした。

昭和三十二年十一月十三日(土)午後六時より、京都市岡崎の洛陽荘において、五十一年度の支部総会を開催いたしました。学校側より、経済学部長上島武教授、同窓会本部より、比企事務局長のご臨席を得て、出席者二十五名、楽しいひとときを過しました。

会が進むにつれ、年代の違いを越え、楽しく談話いたしました。年一回の総会であり、違った意味での社会勉強の出来る場として、出席賜われますればさいわいでございます。

東京支部支部長	友一
東海	加藤 正秋
滋賀	野田 邦弘
京都	木下 隆徳
丹有	梶村 文弥
神戸	田中 義一
姫路	永川 仁一
和歌山	松本 旬弘
岡山	大森 喜太志
広島	佐々木 一義
山口	串田 一
高松	矢野 保郎
徳島	谷 俊一郎
高知	横田 憲介
北九州	荒牧 博之
石川	石地与四太郎
福井	内田 甫
富山	重松 尚
三重	水上 敏夫
西宮	増田 憲治
大坂市役所支部	金子 昭典
岐阜	丹羽 好輝
奈良	川島 正作
南九州	宮田 順一郎
東播磨	北井 清之

ジャー、家族のレクリエーションに利用の好評高く、年内満員の予約で、五月には早や札止めの盛況であります。

以上支部の近況の一部を報告申し上げますが、五十二年の総会は、十一月二十日の日曜日に、前年と同じ奈良市登大路の県文化会館で開催の予定です。奈良県在住の支部会員は勿論、他府県在住の皆様参加をお待ち申し上げます。

全国の皆さん、お元気で。
(奈良支部長 川島 正作)

姫路支部

左記の通り支部の総会を開催いたしました。

(一)日時 八月五日(金) 一八・三〇
〇一二・三〇

(二)場所 北京閣(市内十一所前町)
(三)来賓 母校より藤原教授、北崎教養部長、比企事務局長。
出席者 六十一名

(四)新しい事業として久しぶりに支部の名簿を作成。同窓生もゆうに五〇〇名を突破。

(五)今回は往復ハガキで案内状を出さずに、各卒業回数毎に幹事役的(世話役的)な人を一―三名お願いして、その回数の方に電話連絡をして頂きました。

(六)従来姫路支部に含まれておりました加古川方面の同窓が去る二月六日(日)東播磨支部を結成されました。

四明五十三年が姫路支部結成満三十周年(二・三・一・一八支部結成)になります。有意義な総会を開催致したいと存じますので、どんなアイデアでも支部

役員にお知らせ下さい。

(五)当日はオールド・アンド・ヤングの卒業生。そして藤原・北崎両教授を交え、古いカストリ談義、思い出話、ゴッタル経済学の見直し、第三の経済学の出現待望論に華を咲かせ歌のカーニバルに包まれつつ、和気霽々裡に散会しました。

支部役員一覧表

支部長 永川 仁一(六回)
副支部長 柳内 明(五回)
会計幹事 福永 好文(一九回)
幹事 長谷川 孝(二回)
米田 泰造(二回)
一九七七・八・六記
(姫路支部長 永川 仁一)

岡山支部

昭和五十二年度大阪経済大学同窓会岡山支部報告

昭和五十二年度大阪経済大学同窓会岡山支部総会を下記の通り開催しましたので御報告します。

日時 昭和五十二年六月二十六日
正午より

場所 岡山市駅前町
三好郎本店三階ホール
会費 ¥五、〇〇〇

出席者(同窓生)
大森喜太志(六) 内藤喜一(七)
久保雄一郎(七) 内田元愷(七) 高尾勝郎(七) 山田録二郎(十二) 岩藤一三(十二) 藤田康政(十二) 中張幹三(十二) 村上一夫(十二) 尾崎和(十二) 尾谷耕平(十四) 田辺文午(十八) 大枝一秋(十九) 両部和夫(二〇) 小倉好和(二四) 高島典治(二八) 赤木俊夫(二九) 信定峻(三三) 堤一浩(三三) 井上政之

に移る。

結果次の通り役員を選出。

支部長 六回卒 大森喜太志
副支部長 七回卒 久保雄一郎
副支部長 二四回卒 小倉 好和
世話人幹事
(二回―一〇回) 七回卒
久保雄一郎(兼務)
(十一回―二〇回) 十二回卒
村上 一夫
(二一回―三〇回) 二四回卒
小倉 好和(兼務)
(三一回―四〇回) 三二回卒
信 定俊
(四一回―) 四一回卒
草加 昌昭

役員選出後泉谷教授の音頭で乾杯をして親睦会に入っている。その雰囲気は今迄にはないなごやかさ、将に和気あいあい。五人の美女のサービスも加えて十五時迄。司会者閉会の機



東播磨支部結成式



支部総会から・上 東播磨支部 下 奈良支部

今年卒業して三十年目にあたる同期会を六月十二日、京都美濃吉で開きました。梅雨の折にもかかわらず好天に恵まれ、三十五名が参加しました。戦中戦後の激動期に学生時代を過ごし、その後もまぐるしい年月を経て来た私達ですが、今も若々しく、家庭の主婦は勿論、職場にプロとして活躍している人、またスポーツに、趣味に、社会奉仕活動に活躍している人など、異った生活の歩みがそれぞれの年齢に個性美を添えているように感じられました。

今後同期会の進む方向として、これからの人生を豊かにするため、幸わせも苦勞もともに話し合い、励ましあえる会にしてゆきたいという希望から、三十年を好機に、会の名称・会則を検討して発表させるべく、よりよい交流のための話し合いの場としました。名称は「一三會」とし、会則も後記のように決まりました。「ひとみ会」が同期の皆さまの和を広げ、心の灯となりますよう、ご協力の程お願いいたします。

ひとみ会会則

一、名称 この会はひとみ会(大阪経済大学第十三同期会)と称する

二、目的 ひとみ会は会員の親睦をはかり活発な通信活動を行い相互に精神的扶助をはかる(心の支え)ことを目的とする

三、会員 ひとみ会の会員は大阪経済大学第十三期生とする

四、活動 ひとみ会の運営は会費によるひとみ会の会費は開催時に徴集する、ひとみ会は相互親睦のため年一回以上開催する会員は住所の変更や他の会員の慶弔を知った場合は役員に報告する

役員はひとみ会の会計についてひとみ会開催時に報告する

五、役員 ひとみ会の役員は同窓会理事およびその年度のひとみ会幹事がこれにあたる

ひとみ会幹事は会員より互選する。

役員は通信連絡など会の運営にあたる

「一三會」の誕生

(第13回同期会開催)

程お願いいたします。また名簿(五二・五・二三現在)は東京・京都・北摂・京阪・阪急阪神・神戸・近鉄・南海・奈良その他と地区別グループにまとめました。各地区毎の連絡網を密にしてゆきたいと願っております。消息不明、ご返信のない方など、ご存知の方はご連絡をよろしくお待ちしております。その他いろいろ、今後の「ひとみ会

なお、本年度は三十年記念として千円づつ徴集し準備金としました。会費の徴集方法は話し合いの結果、ひとみ会開催時に集めることをたてまえとし、もし欠席の場合は会費のみ(当日の実費とは別に)送金することにきまりました。(年三〇〇円程度充当の予定)贈与・相続などに関して、大城戸・坂中・松浦三會計士の好意ある申出に対しては、会員中に専門家がおりられる力強さと友情に感謝するとともに、相談事務の場合は、

会をつかむことに困難なるも、定刻十五時に閉会を宣し、名残り惜しくも解散する。
(岡山支部長 大森 喜太志)

高知支部

好意とビジネスをはっきり区別してお願いするということを確認しあいました。何分ともよろしくお願いいたします。

地区別名簿ご入用の方三〇〇円(郵送費とも) 大阪経済大学前田宛準備金ご送付先は役員宛本年度幹事(五三年ひとみ会開催まで) 阿部淑子 諏訪美美子(京都市区)

文責 西田(細井) 奥村(山路) 前田(山田)

高知名物の「よさこい踊り」も終り、台風銀座といわれてもう一つの名物にされている台風も今年は幸なことにも通らず無事夏の幕を閉じようとしていたが、日中はやはり南国土佐であるだけに暑さは厳しい。

さて、当日会場である高知駅前第一ホテルへ三三五集り来り、会場はなごやかな雰囲気だだよっている。あちらに一団、こちらに一群。やはり同じ釜の飯を食っただけある。定刻前であるのに、もう宴たけなわという感じである。

定刻を少し過ぎて野本幹事の開会宣言により開会。まず横田支部長の挨拶のあと、同窓会本部より久しぶりにご来高いただいた比企事務局長の本部日より、いつもながらユーモアたっぷり笑いが起る。続いて母校を代表して内海健一経済学部教授兼学校法人理事より母校の現況について詳細にわたりが報告をいた

き、高知にいながら母校の状況が手にとるようになりわが懐しく拝聴した。引き続き出席者各員の自己紹介……「花の四十二年卒」が多かったのも今年の特色である。

さあ懇親会の開宴となった。横田支部長の音頭で、ビールの乾盃。高知名物のさばち料理を味いながら話はずんでいける。「高知の少々は升々らしいな」と、ひかえ目にしておられた内海先生もいっしつか輪の中へ入られ、師弟融和を絵にかいたようである。そして閉会のときが来たが未だ去り難い十数名が横田支部長のはからいでホテルの地下のバーへ集合し、そこで最後に学歌を斉唱して、また来年の再会を約してとっぷり暮れた夜の街に一人また一人去り終宴した。実に楽しい一夜であった。
(幹事 野本)

北九州支部

北九州支部総会は、今年も経大出張入試が福岡市で行なわれたのを機会に、二月十八日に開催した。ところは博多駅前リッチホテル。今年の新しい現象は、例年になく、新しい人の参加が目立った。これは集大成の新しい名簿ができあがって、この名簿に新しく登場した人たちに案内状を出したその反応によるものだが、同じ福岡市内に住んでいて、意外な同窓生や仲間との対面もあり、その懐旧の情ひとしお深かった。そこで、同窓会名簿のいくつかの購入申込みもあったが、名簿の効力かくやという感を強めた。
経大を出て、星霜、四十年になるうとするが、日々新たに、時は移り、日は流れ、同窓生仲間も。来る人、去る人、はたまたま逝く人。ささ

やかな北九州のかたすみから、同窓会仲間との集いのたびに、そのような感慨また新たに、経大の発展を祈るや切。
(お願い・北九州地域―福岡・佐賀・長崎・大分―)の方で支部に未登録の方は、
、荒牧博之宛と連絡くだ
(北九州支部長 荒牧 博之)

南九州支部

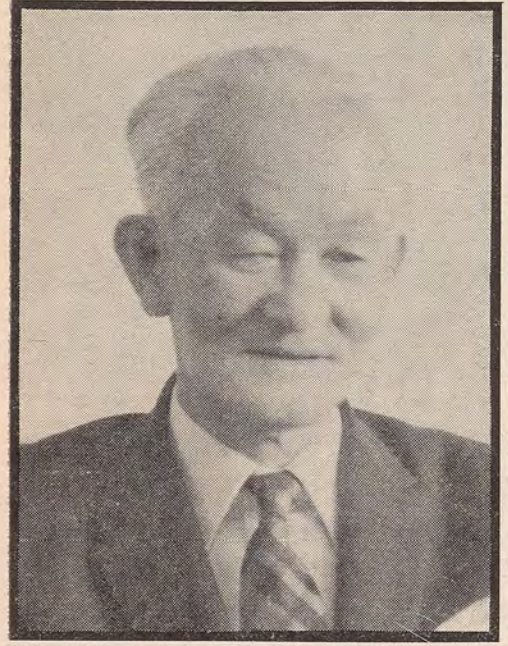
「南の島に雪が降る」という言葉があるが、二月十五日夕刻から降りはじめた雪は一向にやむ気配をみせず、音もなくしんしんと降り続き南の国鹿児島を白銀一色に包みこんでしまった。翌十六日も降雪は続き市内の交通機関にも支障がはじめた。なぜなら、南国だけにスノー・チェーンを持っていく車が少なく、また、その在庫品も殆どないからである。そして積雪はとうとう街の中心地で三〇cmを越してしまい、それが凍りつき歩行さえ困難になってきた。二月十七日は当地で行なわれる母校の入学試験の第一日目(経済学部)である。入試ができるのだから、テレビ、ラジオは刻々と交通途絶を報じている。とうとう鹿児島は八〇年来ともいわれる大雪によって完全に一孤島に化してしまっただけに、このような状況下において二月十七日夜に総会を開催したが、幹事として、まずの心配は、本部の渡辺理事長の飛行機が空港に着地できるであろうか、次にこの状況下において、当初四十余名の出席通知をいただいた同窓が何人参集できるであらうかということであった。

うかということであった。しかし第一の問題である渡辺理事長は無事来鹿された。あの悪条件のもとでよく着地できたものだと思ふ。次は、総会開催時間が近づいてくる。当初予想した参集は不可能であるということが判明した。
その理由は国鉄、バス市電が運転不可能になり一部のタクシーを除いて交通が完全に止まってしまったからである。そこで、市内在住者で歩いて来れる程度の人だけを電話で召集をかける有様であった。
ところが予期せぬことが突発した。というのは、会場がこの想像もなかった大雪によって臨時休業をしてしまったということである。やっと代りの会場を天文館のエビスに求めたが本場にこんな支部総会はないといえるだろう。
しかしエビスに参集したわれら経大同窓生は母校より入試のため来鹿された八木田先生、細羽課長をはじめ、本部より渡辺理事長、比企事務局長を囲み戸外の異変寒波をふきとばす熱気でむんむんしていた。会は渡辺理事長のご挨拶、八木田先生の母校近況にはじまり、比企事務局長の報告、あとは鹿児島名産の焼酎で盃がとぶ。しかしいつものように時の経つのを忘れる訳にはいかない。なぜなら、そこそそエビスが孤立化してしまっただけである。名残りをおしみなながら早々に引きあげる。
このように今回の南九州支部総会には実に印象に残る会であった。それだけに、この悪条件下に当支部総会にご参集いただいた母校および同窓会本部の各位に心からお礼を申し上げます。
(副支部長 前園)

福井孝治先生逝去さる

—6月19日「法然院」にて追悼法要—

学長、大学院長として情熱の限りを



大阪経済大学にとって偉大な存在であり、希望の星でもあった福井孝治先生が、突然三月十三日逝去されました。
先生は経大の学長として、また大学院長として若者の育成に情熱を傾注されたことはいまでもありませんが、いつも柔和な笑顔で人に接せられ、相手の談話をただうなづきながら聞き、自分の主観を相手に押しつけることのない人間の最高の持主であったといえます。しかし、こと学問に及ぶと一片の妥協も許されぬ厳しい先生と化し、あの柔和さはどこへかと思われ先生でもありません。戦前、戦中、戦後を通じて先生の学説は一貫して流れ、戦中といえどもそれを曲げられることがなかったと聞いています。
経大としても、学界としても二度と得られない先生を失い断腸の思いです。ここに衷心より哀悼の意を表し、先生のご冥福を心から祈念いたします。

福井先生追悼法要

前大阪経済大学学長、前大阪経済大学大学院経済学研究科科長、経済学博士故福井孝治先生のご遺徳を偲び、昭和五十二年六月十九日(日)、京都鹿ヶ谷「法然院」において先生の追悼法要が大学主催で厳かにとり行なわれました。

当日は午後十二時三〇分より法然院本堂において、先生のご家族の方々をはじめ、先生ゆかりの方々百有余名ご参列のもと、しめやかに読経、焼香が行なわれました。
引き続き別室にて「福井先生を偲ぶ会」が藤原光治郎先生の司会で行なわれました。ご遺族代表ご挨拶に続き、藤田敬三理事長のご挨拶をかねた福井先

生への追悼のことばの後、ご参列の諸先生方から次々と尽きるところのない思い出話が語られました。
この思い出話が語られる中で先生の偉大さを今更ながら痛感させられた次第です。
ここに改めて先生の霊安かれと心からご冥福を祈ります。

故福井孝治先生略歴

- 大正一二年三月 京都帝国大学経済学部卒業
- 一二年四月 京都帝国大学大学院入学
- 一二年二月 文部省在外研究員として欧州に留学(大正一四年四月帰国)
- 一四年六月 福島高等商業学校教授(現福島大学)
- 昭和四年三月 大阪商科大学助教授(現、大阪市立大学)
- 八年 大阪商科大学教授
- 一七年 大阪商科大学評議員
- 二四年四月 大阪市立大学教授、経済学部長
- 二五年四月 大阪経済大学長兼任(昭和三五年五月まで)
- 二五年一月 経済学博士
- 二八年六月 大阪市立大学大学院委員
- 三〇年一月 大阪市立大学経済研究所長事務取扱
- 三一年一月 大阪市立大学経済研究所長
- 三五年一月 大阪市立大学長(昭和三八年一月まで)
- 三七年六月 公立大学協会会長(昭和三八年一月まで)
- 三八年一月 大阪市立大学名誉教授
- 三九年四月 大阪経済大学教授
- 四一年四月 大阪経済大学大学院長(昭和四五年一月まで)
- 四五年一月 大阪経済大学長(昭和五〇年一月まで)
- 四六年一月 大阪経済大学産業経済研究所長
- 五二年三月三日 逝去

中小企業季報

国際化時代の中小企業の理論と情報

経済の国際化時代にふさわしい今後の中小企業のあり方を示す論文
解説および書評
中小企業に関する文献目録
年間購読料 ¥1,500 (〒とも)
中小企業経営研究所



ここ数年、同窓会と現役学生諸君との対話が途絶えていた。久し振りに編集部と学生諸君が話し合い、お互いの理解を深める事が出来た。最近のクラブ活動、ゼミの動き、そして、若い学生諸君の考え方などをまとめてみた。

同窓会をもっと身近なものに

<学生と語る>

クラブ活動に積極的な援助を

同窓会をもっと身近かなものに 現役学生と同窓会のか、わり合いは、今のところ、一部のかざられた部分、例えば運動総部、吹奏楽総部といったものに限られていた。しかし、同窓会員も今や三万を越え、社会的に著名な先輩も多い。こうした同窓生とのつながりを大切にするために、OB会の結成を学生の側から呼びかけ、基礎のしっかりしたOB会を作って行けば、それは現役活動の基盤ともなるに違いない。この事はゼミのOB会も同様であり縦のつながりこそ、同窓会の本質であることを知るべきであろう。

さらにここ数年行なわれていなかった理事の選出についても、その回の同窓会に於ける発言権は理事以外にない現状であれば理事の選出が火急の要であり、若い理事諸君のヤングパワーが同窓会には必要である。クラブ、ゼミの動き 体育会各クラブは、優秀部員の不足に悩んでおり、最近では低迷きみである。その

新聞の受験者数の表にも出ていない時が多く、無視されているようにやり切れない。全くわれわれ同窓会でも同感であり、われわれにも本学の名前を出すための努力が足りなかった事を痛感した。今後は学校と共に我々同窓会もそうした努力を惜しまず、校名発揚につとめたいものだ。

話し合えば、それが如何に身近なものであるかを認識出来、さらに本学の基盤を固めるためには、同窓会、現役学生、学校の三者一体の協力が必要であることも、充分確認出来たように思う。

これは学生諸君からの報告のみが頼りであるので、各クラブまたは本部からの原稿を待って、どんどん掲載してゆきたいと思う。

特に広い底辺を持つゼミ協の今後の発展には、各ゼミのOB会の結成等で協力しながら、現在のような、有志によるゼミ協から、全学的なゼミ協への発展を援助するべきであろう。

学生諸君との話し合いは、秋の引きつきの直後が適当であると思われるので、今後十一月中旬頃に定期的に行なえるよう計画してゆきたいものだ。

盛会だった就職懇談会

会社訪問をもっと積極的に

九月九日金曜日、準備を終えて腰をおろした午後七時頃のこと、台風9号の進路が中国大陸へ向ったということを知ってひと安心。これだけ趣向をこらして準備した会合が万一台風のために中止ということでもなればすべて水泡でガクリということになる。しかし考えてみれば九月十日といえれば、昔から二十十日の前日で暴風雨予定目とされた厄日だから少し冒険であったかもしれない。

学理事でもある大阪日産自動車社長世良鎌次氏、近くは四十七年卒業で働そごう勤務の岩橋正行氏など新旧いり混じった同窓生が顔をそろえている。

等々どの意見も大学と後輩達にとつて、現実的で建設的なものばかりである。私も、しほみかけた火に油を注がれたようで何んとなく「上を向いて歩こうよ」の心境だ。

改めて先輩方のいきごみと母校愛の強さに感じさせられた。今回の就職懇談会の目的とすることがなんであるかは、同窓生の方々なら説明の要はないものと思う。この厳しい就職戦線のもとで、苦しい戦いを余儀なくされている本学生の就職状況をすこしでもアップさせるため、また学生達が、どのようにすれば自己の希望するところへ就職出来るか、等の主として大学側の対処を必要とする忌憚ないご意見とご協力を得るための催しであった。

その日九月十日、朝からむし暑いどんよりとした曇り空でなんだかいまにも一雨きそうな天候である。最後の点検を終えてあわただしい昼食をとる。さて、定刻を少しオーバーした十三時三十分懇談会は始まった。

玉置学長・藤田理事長をはじめとする大学側出席者の挨拶に続いて同窓生一人一人の自己紹介である。さすが在学生のコンパと違ってそれぞれ持味のあるユーモア溢れる紹介だ。

「企業開拓に就職部がもっと本腰を入れて取り組め」、「ゼミナールをより密度の高いものとせよ」、「他大学に比べて専門科目が少ない」、「後輩達に先輩をもっと利用しろと伝えて欲しい」、「会社訪問を積極的に」

来年も再来年も、地元大阪でも、徐々に地方でも、この催しを繰り広げたいと念願している。今後共どうぞ協力下さい。私も母校を愛する一卒業生です。(一九七七・九・記)



懇談会々場

「ゼミの集い」欄を設けておりますので大いに活用してください。

この原稿は現在、大阪経済大学でゼミナールを担当されている先生がたにおたずねしたうち、お返事をいただいたものを集録したものです。

ご参考までに、事務局よりゼミご担当の先生におたずねいたしました事項は、

一、最近ゼミナールOB会を開催されたことがござ

ゼミ短信

いますか。されました時はその世話役に原稿を提出するようお願いして下さい。

二、先生のご近況につきまして卒業生に一言お知らせ下さい。

三、その他雑感、随想などございましたら「寄稿下さい。」

(事務局・アイウエオ順)

岩井ゼミ 岩井 茂先生

岩井ゼミは、本年度は四回生はなく、昨秋募集した三回生三〇名のクラスだけで、相変わらずIMFの研究をしています。夏休み前に一度コンパをして、お互いに顔なじみになりました。本年度の幹事は仲々熱心で、秋頃ゼミ旅行しようとのこと、すでに旅費の積立てをしています。行先などはまだ決っていないようです。

それから同窓会の方から、下記年度のゼミの諸君の消息が不明だとい

- 昭和四〇年度
- 昭和四九年度
- 昭和五〇年度
- 昭和五一年度

喜田ゼミ 喜田義雄先生

第二十一回生の「喜楽会」は毎年十二月に開いており、昨年は十一日(土)に、京都嵐山で催しました。今年来る十二月三日(土)熱海、来宮町・かじか荘(同窓の経営)

竹林ゼミ 竹林庄太郎先生

①私が経大のゼミを担当して二十五年をすぎました。ここ三年間にゼミ会をまとめる予定です。卒業生概数四〇〇名に達しています。

②同窓会本部を大阪市内中心部において、クラブ式に設立されてはどうですか。資金は各ゼミ卒から募集すれば、事務所一つくらいは持てるでしょう。

③同窓生と学校とのさらに密接な有機的連繫を保てば、在校生の就職もさらに有効的になると思います。昭和五〇年度、五〇周年記念委員会を学校と共同で発足されてはどうですか。

私は同志社を本年三月、停年退職しました。経大では引きつづき、講義とゼミと大学院を担当しています。私の同大のゼミ卒業生は一、〇〇〇名を越え、大阪市内にゼミ事務室をビル内に借入れ、毎月例会、適時商談会を開き盛況です。会費なし有志の寄付金です。

玉井ゼミ 玉井孝弘先生

昔の悪童悪女たち、健やかであるうな。余は、胃・十二指腸潰瘍、糖尿、肝臓、高コレステロール、低蛋白の諸病に愛されながら、余命を保っている。

今春は、定員二〇人のところへ、野性豊かな若者が四〇有余人駆け参りてきよった。己んぬる哉。A、B班にわけてワイワイやっておる。ゼミの旅は湯田温泉、津和野組と隠岐島組に分れての乱水の旅じゃ。悪童の守りもしんどいことじゃ。

で、喜楽会と喜田ゼミ同窓会の関東在任の会(主に名古屋以東)を開催したいので、精々多く参集するよう呼びかけて下さいと、幹事から連絡を受けております。

開催するからには盛大にしたいと思ひます。今回の幹事の氏名・住所は次の通りです。

浜田 純男

倉辻ゼミ 倉辻平治先生

〇ゼミナールの近況。今年までゼミは、経済成長の功罪の問題を、自動車社会の問題を中心として取り上げてきましたが、来年はこうした問題を思想的に更に掘り下げて探究するため、マックス・ヴェーバーにおける経済と倫理の問題を、ゼミのテーマとして取り上げる予定です。なお、ゼミは三十名近い人数ですのでゼミの運営に種々問題があり、その解決方法について目下ゼミ生諸君と検討中です。

〇ゼミ卒業生諸君への伝言。ゼミ卒生の懇親会として年一回倉春会を開催しています。今年も第六回目を

さもあらばあれ、千里王子の里に酒神バックスをおろがむもまたよし。

永野ゼミ 永野 仁先生

〇近況

今年(昭和三〇年)以降の短篇小説を読んでいきます。ゼミ生もだんだん増えてまいりました。夏期合宿は丹後の網野で行ないました。

私は「岸和田市史第五卷(現代)」が三月に出て、ホッと一息というところ。次は近世編です。正月にある画家との合作で「芭蕉旅かるた」(新泉社)を出しました。これは文字どおりカルタです。

御転居の節は必ずおしらせください。

浜本ゼミ 浜本 泰先生

ゼミOBの皆さん、お元気に活躍のこととおもいます。現在、松本治氏(29回卒)山本邦博氏(30回卒)など各位のご努力によりOB会の名簿を作成中です。ご案内のように、所期の日時に向けて鋭意努力中ですが、その節にはよろしくご協力下さるようお願いいたします。

現役も頑張っており、春夏の合宿、関西ゼミ報告参加、全日本ゼミ大会報告参加と伝統をまもっております。部門も、日本経済論、経営総論、経営管理論、経営組織論、労務管理論、証券市場論と、加うるに経営財務論、中小企業論(両部門新設)となり、一同はりきっております。

小生も二年間の経営学部長の任期

もちました。毎回六十名前後集り、お互い旧交を温めながら愉しく一夕をすごします。此上ともより多数の諸友の参加を期待しています。

稲原ゼミ 稲原康雄先生

今冬二月のゼミ旅行は、一昨年と同じ道東へ繰り出したが、「水雪地帯の交通視察」のテーマに恰好な見聞に充ちていた。

二月九日の特急「白鳥」は、豪雪地帯を無事切り抜けはしたが「白新線」に入って電気系統に故障を生じ、惰行運転で佐々木駅に辿り着いたあと動けなくなった。ここは裏日本縦貫線に唯一つ残された単線区間であり、東京大阪からの長距離列車とローカル列車とが毎時隙路であり、それゆえ白新線競争で名立たるストの主戦場でもある。

氷点下の寒空の下でわれわれはオンボロ通勤列車に詰め替えられて新発田駅に向ったが、それはスリル満点の乗心地であった。寒さで車輛のバネが利かなくなり線路が凍上して凹凸しているのに、満員列車が回復運転でスピードを上げるのだから、客車のポデーは台車に撃突したえず線路外に跳び出そうとする。傍の学生たちには脱線転覆の覚悟を促しておいたが、幸い将棋倒しをくらった

藤原先生藤原友会総会から



を全うし、現在、広報部長としてその責にありませう。大学にとって何か良きニュースでもあればご一報下さい。

(運鈍根の三位一体を忘れないように)

藤原ゼミ 藤原光治郎先生

藤原ゼミ出身の皆さんお元気ですか。ゼミ出身の集い藤原友会の様子をお知らせします。前回の澱江でのご案内しました通り、藤原友会発会の準備会は、昨年十一月三日の同窓会総会に引き続き、母校で二十五名の出席のもとごやかに先生をかこんで藤原友会発展のムードづくりが出来ました。

第一回総会は三月十九日山中荘で行われました。三月の多忙な決算月のため欠席を余儀なくされた方も多数ありましたが、関東や北陸等からもかけつけて来られ総勢六十五名の出席となりました。

感激の対面が早や受付ではじまりました。「やあ、しばらく」となつ

かしい友とのかたい友情の握手に、控室でのお互いの紹介に「やあ君か、ずい分貴族がついて」との言葉に、すっかりなつかしい学生時代のお互いにかえり、会合を前にして熱気がただよっていました。

浜崎会長の挨拶、林副会長の経過報告に続いて藤原先生のご挨拶がありました。ますますお元気なお姿で繁栄の一途をたどる母校の現況をお聞かせいただき、ゼミ出身の集い藤原友会の発会を感謝され、会員一同の活躍と健康を祈念する言葉をいただきました。先生への記念品贈呈に続き、同窓会を代表して山中先輩のご挨拶がありました。

いよいよ開宴、卒業年度別グループのテーブル、あつというまにあちこちにうちとけた友情の絆のめばえることの早さ、さすが藤原ゼミ出身の集いである感がしました。

十一回、十四回卒の先輩の方々の当時の様子を伺ったり、お互いに語り、酒をくみかわす度ごとに出席出来たよろこびをかみしめあいました。同期別にステージで歌がとび出し、二十五回卒の先生をかこんで同期の桜につづき、藤原先生のドイツ語での若々しい歌声に、一同うっとり聞きほれる頃には、宴はいよいよ最高潮に達し、力持の二十九回生が舞台上飛び入り恩師を肩にかついでの大合唱とあいなりました。

最後は全員で先生をとりかこみ大きな輪が出来上り、学歌、逍遙歌を高らかに歌い、藤原先生のご健康と藤原友会の発展を祈念して、別れを惜しながら幕となりました。

次回は是非あなたも出席して下さい。同期の集いをもりあげ横から縦への発展を期待しております。

当日は現役諸君のお手伝いをいた

同窓会名簿を訂正して下さい

今回立派な同窓会名簿が出来上りましたが、ご承知のように、昭和商時代から数えて、卒業生の数は3万人、特に最近では年々2000人近くの人達が卒業するのですから、その近況の把握は大変で、名簿の作製もそれにつれて困難なものとなってきました。

5年の間隔で出来るかどうか、多少疑問な点もあります。そこで、今後、この澱江の紙面を借りて、不明者の発掘と、名簿の変更等をご連絡することになりました。どうかお手元の名簿と照らし合せ、ご訂正下さい。

なお、左の欄は全面的な訂正で、右の欄は一部訂正ですので、右の欄につきましては、ゴチックのところだけを訂正して下さい。

全 面 訂 正										一 部 訂 正				
ページ	回	氏名	ゼミ	勤務先または職業	電 話	郵便番号	現 住 所	電 話	電 話	ページ	回	役職名	氏 名	正
(同窓会本部役員)										(同窓会本部役員)				
11	理 事	鈴木 則男								9	3	常任理事	世良 鍊次	
	"	竹元 慶有								"	"	"	"	
(同窓会支部役員)										(同窓会支部役員)				
13	神戸支部長	田中 義一								23	常任総務	酒井 弘光		
	東播磨支部長	北井 清之								"	"	"	"	
(会 員)										(会 員)				
61	5	阿部 忠男								13	常任編集	前田 悦子		
62	"	中野 末正								10	17	理 事	(大原)西尾	
"	"	吉原 清次								"	"	"	"	
68	6	竹内 多喜男								20	"	山村 恭造		
"	"	中川 克己								11	33	"	丹波 繁寿	
"	"	仲 哲彦								(同窓会支部役員)				
73	7	秋元 淑男								13	8	丹有支部長	梶村 文弥	
74	"	川瀬 良二								"	"	"	"	
81	8	植田 耕清								"	7	高知支部長	横田 憲介	
82	"	(川端)石村								(会 員)				
83	"	田城 宏旭								43	1	内田 真二		
84	"	宮前 旭								47	2	尾本 勝信(勝伸)		
88	9	武内 啓三郎								"	"	坂口 福六		
93	10	亀井 一								51	3	世良 鍊次		
94	"	(小路)森田善藏								"	"	"		
"	"	下村 惠一								57	4	(石井)中西 三郎		
"	"	田中 義一								61	5	坂田 昌男		
"	"	田和 茂三								"	"	清水 平三郎		
95	"	浜本 清								"	"	芝田 礼二		
99	11	青山 真二	松井							"	"	関根 辰雄		
100	"	坂田 正旭	藤原							62	"	中尾 大輔		
102	"	日高 宗教	久野							"	"	藤田 泰雄		
"	"	堀江 正義	西川							"	"	宮崎 茂省		
			藤原							67	6	山田 元仰		

「酒とバラと女の日々」で、こ
かで見たいなタイトルと思
いになる。まさしく音楽「酒と
バラの日々」に女をつけ加えさせ
てもらった次第。ごぞんじ「酒と
バラ」は、映画にもなったし、
そのテーマ曲は、アカデミー主題
歌賞も獲得したかの名作。映画は
ある会社に勤める陽気で、酒好
きの男が、お得意先の会社の秘書
と結婚するが、彼女も無類の酒好
き。夫婦そろって酒びりになる
という、まことにけっこうなスト
ーリー。そこで「酒とバラの日
々」に負けてなるものか、こちら
は女もいるんだというわけ。
お酒はよくのんだもんだ。中学
三年のときが初呑みだから、酒歴
はご想像にまかせよう。戦争中、
軍閥からにらまれ、徴罰召集でソ
満国境に追いやられたが、ナニク
ソと満人からコウジ？を仕入れ、
お酒を密造した記憶が忘れられな
い。まあ、兵隊やくざといったと
だき有難うございました。

松原ゼミ 松原和男先生

この七月十六・十七日の両日、昭
和五十年卒業(第二部)のゼミO
B会が、兵庫県の新舞子海岸で開か
れ、私も出席しました。(実は昨年夏
にも開かれたのですが、所用のため
出席できず残念でした。)今年は今
時の卒業生の約半数が出席するとい
う盛会で、久しぶりに旧ゼミ生諸君
の社会人としての活躍ぶりを中心
に夜更けまで歓談し、大変に楽しい一
夜を過ごすことができました。なお、
他の年次のゼミOBの諸君とも集ま
る機会があればと思っております。

逆説

酒とバラと女の日々

第六回 荒牧博之

ころかな。このまえ、FM放送で
酒の取材に国税局にでかけたが、
鑑定官曰く「お酒には甘・辛・酸
・苦・渋と、五つの味があり、ち
ょうど音楽のオーケストラのバラ
ンスのとれたハーモニーが美しい
ように、お酒も甘からず、辛から
ず、苦からず、調和のとれたもの
が、ホントにおいしいお酒だそう
だ。なるほど。この極意を秘め、
先日、福岡国税局のきき酒会によ
ばれ、さっそくためしてみた。銘
柄や品質を当てるきき酒テストだ
が、日本酒のセクションでは満点
をとることに相成った。ところで
そのお酒のみ方。中学のとき
の先輩・若山牧水が、「酒は静
かにのむべかりけり」と名作を残
しているが、まさにこの一語につ
き、筆者は先輩にならって、牧
水ならぬ牧酔と命名してもらって
いるが、ユメハシゴ酒ナドニ酔ウ
コトナカレ。牧水大先輩の教えに
したがって、いまだ毎夜の如く、
チビリチビリ盃を傾けておる…
さて、お酒との日々はこの程

松原和男ゼミ同窓会が兵庫県揖保
郡御津町の国民宿舎新舞子荘で去る
七月十六・十七日と一泊で八名の参
加を得て行なわれました。夜は経大
の近況等を先生からお伺いし、同窓
生の近況等が活発に話し合われまし
たが、話題が奥様や子供のことに集
まり大笑。卒業後二年余りでの様
に変化があり、職場においても遠く
へ転動している者ありで久しぶりの
対面に皆の心はずんではいました。
翌日は、舞子海水浴場で少し泳
ぎ、午後は姫路城へというコースで
アツという間に二日が過ぎ、またの
再会を成功させるため幹事として清

水君を選び住所等に異動があれば連
絡をすることを決めましたので、今
回参加できなかった方々にもご協力
をお願いいたします。
姫路市飾磨区大浜八六六六七二
福本 久幸

倉春会

昭和五十二年七月九日、倉せゼミ
ナール第六回倉春会が行なわれまし
た。今回も前回同様ゼミ第一期生、
陶山、富山両先輩を代表幹事とし、
我々現役四回生、三回生各三名ずつ
で事務的な方面を手伝わせていた
きました。
今回初めての試みとして、現
役学生の司会により会を進めまし

た。これは現役学生と先輩との交流
をより一層深める意味でなされた会
の運営の仕方でした。会は先生のご
挨拶、同窓会本部比企事務局長、幹
事の挨拶と進み、先生の音頭による
乾杯を契機に、各自の懇談に移りま
した。そして夫々のグループ毎に飲
みつくし、時の移るのも忘れ、文字
通り楽しい一夜をすごしました。し
めくりに、先生の「アルト・ハイ
デルベルヒ」の歌が出、続いて全員
スクラムを組んで学歌斉唱、午後八
時三十分名残りを惜しみながら散会
いたしました。
(「倉春会」現役学生幹事
四回生・権藤光博記)

ページ	回	氏名	正
43	1	内田 真二	
47	2	尾本 勝信(勝伸)	
"	"	坂口 福六	
51	3	世良 鍊次	
"	"	"	
57	4	(石井)中西 三郎	
61	5	坂田 昌男	
"	"	清水 平三郎	
"	"	芝田 礼二	
"	"	"	
"	"	関根 辰雄	
62	"	中尾 大輔	
"	"	藤田 泰雄	
"	"	宮崎 茂省	
"	"	山田 元仰	
67	6	上野	

全 面 訂 正

180	22	大畑富作	藤原
181	"	加藤潔	鈴木
"	"	河野雄多	木村
182	"	桜井盛夫	井上
185	"	平井稔	藤原
186	"	松谷嘉隆	藤原
"	"	松本寛	
187	"	村西和久	竹林
188	"	山本峰男	
192	23	上田豊	木村保
"	"	江見仁	藤原
"	"	大橋将二	藤原
194	23	金月六男	藤原
195	"	志水利通	
"	"	田島昭三	井上
"	"	田村静男	
196	"	榑刀喜田	
535	38	神吉裕	資
538	"	楠啓次郎	鈴木
540	"	阪上光夫	玉置
553	"	野崎均	大槻
554	"	花塚利信	倉辻
557	"	藤田明夫	喜田
561	"	水野登	入江
565	"	山本幸一	浜本
567	"	吉田秀俊	
568	"	和田憲明	
577	39	大迫週平	池内
			岡村
588	"	利川正晴	(徐潤玉)
593	"	津田浩志	鈴木
594	"	寺地誠	柴山
609	"	山下清	北里
584	"	小林功	松本
630	40	小柴真人	松本
631	"	小林充明	大槻
632	"	佐藤英夫	
645	"	西村泰幸	松原
655	"	宮本清信	鈴木
656	"	森岡薫	松村
661	"	渡部幹彦	渡辺
647	"	橋本憲明	香川
665	41	赤松茂男	稲原
672	"	覚孝治	
677	"	香西洋	
683	"	高田敬三	内海
685	"	津倉英幸	土井
688	"	中島昭一	千葉
692	"	橋口昌孝	岩井
695	"	藤井較一	
696	"	藤本俊夫	渡辺
702	"	百瀬清	園田
682	"	田中専	市

一 部 訂 正

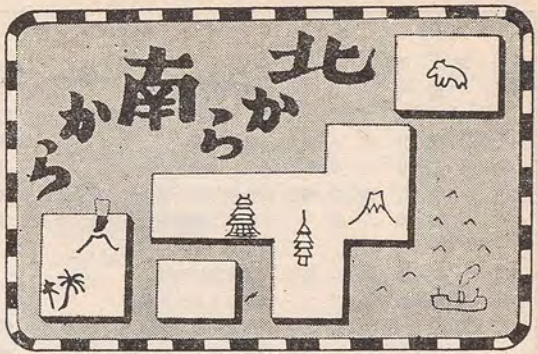
115	13	(生田)正木とよ	
"	"	(奥山)土井智子	
"	"	(川滝)捨田利幸子	
116	"	(佐野)大城戸武子	
"	"	(釈迦戸)和田滂	
"	"	諏訪美美子	
"	"	(高原)藤沢み	
"	"	(千早)松原敦	
"	"	"	
"	"	(藤堂)山田尚	
"	"	(永井)桑江美	
117	"	(森川)本郷恵	
"	"	山崎和	
"	"	"	
123	14	(美馬)堀岡信	
"	"	(井尻)堀部保	
128	15	黒田稔	
136	16	佐々木良夫	
"	"	生賀豊	
"	"	田中稔	
142	17	早崎文治	
143	"	堀江昭	
147	18	稲永成治	
155	19	武田一吉	
156	"	中本隆夫	
"	"	牧田安夫	
157	"	森村利夫	
"	"	"	
"	"	伊山斌	
161	20	石井信雄	
"	"	"	
"	"	石井延次	
"	"	窪田信雄	
162	"	出井清治	
"	"	"	
163	"	山田照三	
167	21	足達悦朗	
168	"	上野和夫	
172	"	中村昭吉	
173	"	藤山忠久	
175	"	賀来通憲	
182	22	小西池甫吉	
183	"	住友五男	
184	"	(綱沢)杉山優	
188	"	横田與之助	(等)
"	"	松谷嘉隆	
194	23	北本伸二	
724	31	井手正夫	
806	35	増田(西村)洋	

全 面 訂 正

103	11	吉村慎治	藤原
107	12	一岡謙二	藤原
110	"	翠高明	
115	13	(赤堀)難波綾子	
"	"	糸井秀子	
"	"	(小橋)津田和代	藤原
"	"	(北山)米田文子	
116	"	(佐野)田中美代子	
"	"	(城山)谷田定子	
"	"	杉本忠子	
"	"	(高塚)山田富子	
117	"	(藤原)西村美津子	
"	"	(三宅)江川順子	
"	"	(山下)神保原豊子	
"	"	大和澄江	
"	"	(和田)井口敦子	
121	14	(井尻)堀部保子	
"	"	(榎本)瑛敏枝	
"	"	(門山)梶本京子	
122	"	(小松)野島ツルエ	
"	"	(田中)山田成子	
"	"	(出口)北浦敏子	
123	"	(増田)土肥淑子	
"	"	(森)若月姪佐子	
127	15	石井孝雄	
"	"	川合庸介	
128	"	後藤陽一	
"	"	鷹取宏	
"	"	塚口昭和	菊田
"	"	(土田)吉村四良	
129	"	本田精一	渡部
"	"	水本英夫	
138	16	森山香	渡部
141	17	(大原)西尾良明	
"	"	岡本只雄	黒羽
142	"	永井美津子	
"	"	平石道夫	
148	18	(多田)春日幸大	
"	"	西丸全一	藤原
153	19	伊山斌	
157	"	山中昇	西處
167	21	井上重夫	藤原
"	"	井上信孝	藤原
"	"	井上寛	藤原
"	"	伊藤稠	藤原
168	"	尾崎良造	藤原
"	"	大上雄二	竹村
"	"	大河内博	
169	21	賀来通憲	
"	"	川口弘	岩井
172	21	西田幸雄	藤原
179	22	安部誠	

一 部 訂 正

67	6	岡田佐市	
68	"	小林茂	
"	"	"	
"	"	末次義三	
"	"	中田富雄	(光雄)
70	"	井上聡	
74	7	久保雄一郎	
"	"	小山義明	
77	"	湯川晏尚	
"	"	"	
"	"	横田憲介	
"	"	秋元淑男	
81	8	天野正一	
"	"	(岡坂)伊藤善光	
"	"	梶村文弥	
"	"	"	
84	"	田城宏	
87	9	赤谷太郎	
88	"	包国祥一	
93	10	打田良一	
"	"	岡本茂	
"	"	大谷治稔	
"	"	川崎清澄	
94	"	古賀久雄	
"	"	武田良吉	
"	"	田中稔	
"	"	土井友美	
95	"	平岩正男	
"	"	日野精三	
"	"	光藤涉	
"	"	水元滝雄	
"	"	筧源一郎	
96	"	山田保太郎	
"	"	山本喜久郎	
96	10	横内武三	
99	11	石塚保	
"	"	"	
100	"	小池啓巨	
102	"	東島金一	
107	12	井手素也	
"	"	小川淳	
108	"	佐々木幸一	
"	"	下辻正雄	
109	"	玉岡浩	
"	"	中張幹三	
110	"	原田実	
"	"	疋田吉隆	
"	"	平野博	
"	"	真鍋治郎	



アンケート集

この原稿は、同窓会会員の皆さんからお寄せいただいたもので、事務局の名簿に
より無さく抽出された方々です。
といっても、単に何でも結構ですというわけにもまいりませんので、特に①現況
について ②母校同窓会に希望すること ③同窓の友人などのこと ④自由にお
書き下さい。ということアンケート式の質問にしてお寄せいただいた短信です。
もとより、同窓会会員は全国各地にあって、北は北海道から南は沖縄にいたるま
でそれぞれ活躍中ですが、これはその近況です。

(五二・五・三二記)

第一回 島野 武雄

母校を出てから早や四十年の年月が流
れました。その間日本の歴史の変遷と共に、
母校もまた私達同窓の人々も、波瀾
に富んだ幾春秋を経験したことと存しま
す。戦争と戦災により、私達同期の者も散
り散りとなり、連絡もなかなかとれませ
ん。会誌が私達にとって唯一の学窓の便
りです。精々内容を豊富にして、学校と
私達との心のつながりになってほしいと
思います。私は永年勤めした銀行生活
を終え、目下第二の人生にて新しい不況
下に企業経営のむづかしさを身をもって
体験しております。還暦を過ぎ、若い人
に負けない日々の勤務に耐えるために先
ず健康であることと存じ、高齢者の忠言を
少しでも実行を心掛けております。快
心、快眠、快便、快食、快働等の言葉が
異口同音に教えられます。皆様の実行を
おすすめします。

第二回 木原 親平

遠い大空に浮ぶお月様へ鉄塊に乗って
行くことが出来、スイッチ一つで居なが
らにテレビ映画(活動写真)を見ることが
出来、血の一滴とまでいわれた石油を湯
水の如く使用出来、交通戦争といわれ
程、街には車が氾濫し、天皇陛下は神様
から人間様に、何かを忘れた総理大臣、

しました。これからは私にとり第三の人
生を歩むことになりませんが、気持は四十
年前、あの瑞光原頭を放歌高吟して歩い
た時代と少しも変わっていません。こと
はそれぞれかたづいて、老婆と二人暮ら
しです。近くにお越しの節は、是非お立
寄り下さい。お待ちしております。

第六回 石 晶 悟

去る二月、突然同期の中川克己君から
お手紙をいただいて懐しいやら嬉しいや
ら、万感胸に迫るものを感じました。卒
業以来三十七年という長い空白が、こ
一通の手紙により在学時代の卓球部のダ
ブルスコンドに還らせてくれたような気
が致します。「友は無言のうち互いに互
胸中を明白、確実に啓示しあう」とゲー
テがいつていますが、本当に良い友を持
つという事は幸せだと思えます。近い
うちに機会を作り、是非お会いし、昔話
に花を咲かせようと心をおどらせていま
す。

最後に、母校の発展を心から祈りし
次号の澗江を楽しみにしつつ筆をおきま
す。

第六回 上野 仰

同窓会には一度も出席せず、申し訳な
く思っております。熊本の方は同窓生の
数も少なく、また戦争のため死んだ人も
あり、少ない上にまた少なくなりまし
た。私の勤務する市役所の近所に、七回
卒の太田君がおりますが(九州電力熊
本支店営業課長)、最早退職しまして、
今度私の番です。

学校には卒業後上京する際に、ちよつ
と立寄って見ましたが、新幹線ができる
前でしたので、現在では全く一変してい
ることと思います。暇が出来ましたので
同窓会の総会に是非出席したいと思っ
ております。学校のますますの発展を祈
ります。

大学教授、商の基本を忘れた企業は悪業
に、強国は平和を唱えながら軍拡をする
人間とは、学問とは、教育とは一体何
だろう、ライオンに道徳という着物を着
せた得体の知れぬ生物が人間様というも
のかしら? されば、道徳という着物をぬ
いで風邪をひいたり、病気になるたり、
人様の前で脱衣して恥をかいたり、蹴飛
ばされないよう、着物が汚れば洗濯し、
破れば縫い、また時と場所、シーズン
によって着がえたりすることも、朕惟ふ
に最敬礼(君が代に教育勅語)で育った
私達には何が何だか分からないが、こ
世は智力、経済力、物理的力等々でバラ
ンスが取れており、幸せに生きるため
は、昔から先輩達が申されたように、ま
ず健康第一に、常に心身を鍛えて強くな
っていることが肝心、とだけは理解出来
そうです。

第五回 戸 谷 鑑 三

昭和十四年三月に卒業して。直ちに上
京、現在の勤務先東京ラヂエーター製造
株式会社に入社した。以来三十八年、鳴
かず飛ばず年齢を加えて来た(現在常務
取締役ではあるが、亀の甲より年の功か
!!)。

第六回 央 戸 利 彦

小生、昭和二十五年堺市役所に勤務し
て二十六年になります。十年前より、堺
市役所勤務で本校在校生並びに卒業生
を介して「経友会」なるものを作り、小
生が会長になり、会員数二十余名をも
つて毎年総会を開催し、在校・卒業生達の
懇親をはかって居ります。

第七回 久 保 雄 一 郎

学園を出て三十六年、私達戦中派の人
生は自分の意志でなくとも、約五十年間
の野戦生活を経験しました。その間、多
くの友人を失いましたが、復員後、各方
面で再建のため頑張り、一応の評価を得
た方々が多かったわけですが、最近のお
知らせでは、第二の人生に歩み出した年
頃になっていきます。時代の移り変わりと社
会構造の進歩もわかりますが、やはり落
着いた人情の細やかな学生時代の下宿生
活など、懐かしく想い出しています。同
窓諸兄の御発展と学園の御盛況をお祈り
しております。

第八回 中 山 清 弘

「澗江」懐しく毎回拝見しています。
ついでに、
一、執筆者の顔写真を添付して下さい
一、昭和商高当時の教授の近況を一度
掲載して下さい。
以上

第八回 北 村 喜 三 郎

北海道は先輩、後輩共々に出身者の稀
少地域です。しかし最近関西系の大学
が本道に人材を求めて入試のPRが活発
で多くの入学志願者があります。是非と
も本道の後輩を育成されることを希望し
ています。
観光が焦点の北海道ですが、確かにそ
の価値があります。その玄関口の函館に
是非とも、同窓諸士、或いは御家族のお

年齢はかくすべくもない。
小学校の同窓会が二年に一回、中学校
の同窓会が年に一回開催され、何れにも
都合のつき次第出席しているが、昨年の
顔が今年見られない、うれいがある。
それ程、上野庄の街のたすまじいが、
忘却の彼方に消え去っている。あそこ
の喫茶店の可愛い娘は、今はどうしている
だろうか、玉空屋にも綺麗なゲーム取り
がいたっけ。青春の胸を燃やしたものだ
が、顔は浮かび青春を来ない。

先日、中学時代の友人と会った時、四
方山話の中で、彼は「俺の息子は君の後
輩だよ。最近大阪経大の入試も難しくな
って、仲々の競争なんだよ」と、語って
いた。私の時は果してどうだったのだろ
うか。入学試験は勿論受けたが、難題と
は思わなかったし、かなりの成績は上げ
得たと自信があったので、入試発表も見
に行かなかった。今昔の感に打たれる
し、入試地獄に悩まされる生徒達を悲し
む。先日、在京同窓会が梅田武文先生に
挨拶した処「君は悪い奴だったな」と、
叱られた。自分ではそうは思っていない
のだが、遊びの方が面白かったので
そちらへ傾いていただけ、その意味で
は、当時悪友ばかりであった。名は秘す
が、この文を読まれた旧友の中には「う
んうん」とうなづいて、そっとははえむ
か、舌を出される方もいるだろう。

こんな昔のことを書くようでは「あ
いづも老人になりよった」と、笑いながら
もなつかしんでくれるかも知れない。ヘ
ルマン・ヘッセのいう「過去になすむ
なかる、将来をおもえばかるなかる、現
在にのみ生きよ」と、あきらめてみる。
皆様のご健康を祈つてやまない。

第十一回 金 子 道 夫

卒業以来三十年余り、御無沙汰をお詫
び申し上げ、近況をお知らせ致します。
仕事の関係で元気に、三分の一年間位出
張であちこちとび廻って居ります。大阪
にも度々行くのですが、なかなか意の如
くならず、同窓会等にも出席出来ず残念
です。或日曜日、母校の廻りを歩き、な
つかしく立寄って守衛さんと昔話をした
事もあります。山口県支部同窓会も十年
位前に出席して皆さんと歓談した事があ
りますが、以来御無沙汰して居ります。
機会があれば本部同窓会にも出席したい
ものと楽しみにして居ります。

立寄りを期待しています。その節は御連
絡下さい。
車で本道にお越しの際は当社の航路を、
そしてカーフェリーを御利用下さい。

第十一回 日 高 宗 教

「澗江」を拝読しながら、御無沙汰はか
りいたして居りますことをお詫び申し上
げます。さて、経大名簿一〇三頁に記載
された同窓生物故者の冥福を祈らずには
居られない心境です。次に、崇敬する温
顔の故黒正学長が種子島にも御足跡を残
されて居られることを知り、二年有余の
学窓時代を懐かしく思い出しました。卒
業して三十三年……本年四月住吉中学校
に転出しました。住所は千九一―三三
鹿兒島県西之表市住吉三三三三
雑文でお許し下さい。 合掌。

第十二回 中 張 幹 三

私達、岡山県下在住の昭和十八年入学
のグループは、毎年会合もっています
が、今年は、五月十五日に倉敷市玉島の
良寛荘に集りました。良寛荘は名僧良寛
の修業地、円通寺の中腹にあります。
当日は、夜来雨の雨も上り、部屋から瀬
戸の島々、水島工業地帯、また対岸の丸
亀あたりまでもはつきりと眺められまし

第十二回 藤 原 大 八

同窓のみならずお元気ですか。勤労動
員、軍務と異状な学生生活、終戦、復
員、そして、経済混乱のなかでの就職、
発病、転職、教師生活といううちに五〇
歳を越えてしまいました。同級のうち二
〇%ぐらいは、戦死とか死亡していま
す。その人々にくらべると、幸せに平和
な日本に生きられたことは、おつりの方
が多かった感じが満足しています。学窓
から軍務に就き、そのまま死んでいった
友のこと、悲しんで耐えられませんが、物
は豊かで、研究しようと思えば資料
はいくらでも発掘できます。国内ばかり
でなく、外国の資料も入手できる。汲
めども尽きない泉のようなもの。手不積
巻……人生はこれで楽しい。――どうも

北から南から
身勝手なことばかり並べて失礼しました。みなさまお幸せに。

事

第二十回 村上 弘
毎年送っていた「澗江」を楽しく拝読致しております。やはり、経大の様子を知られることはまことにうれしいものです。先日、経大の後輩と共に、久しぶりに杯をくみ交し気分よく帰宅する、経大同窓会より投稿の依頼通知が届いていました。偶然とはいえ、何か胸に感ずるものを感じました。同窓生の皆さんいかがお過ごしですか。さぞかし、それぞれの分野で頑張っておられることと思いますが、一度相い語り合いたいものです。小生卒業以来、西陽市に於て、当地特産の先染織物を取扱う産元として地域産業発展のため、一翼を荷うべく微力ながら努力している次第です。

第十八回 西丸 全一
現在、当地の「生協」活動の真只中で日夜四苦八苦しております。最近では母校でも協同組合論も講義されているか、承って隔世の感を深くしながら、母校同窓会への無音を反省して居る次第です。横好きの油絵も、チャーター会の年二回の展覧会作品がやつとで、ヨーロッパバスケットも作品とまで行かず、年越し倉入りという始末……。これを機会に、心機一転、母校同窓会をはじめ、東海支部の各位とも御交誼の機を得たく考えて居りますのでよろしくお願ひ申し上げます。梅田、藤原両先生はじめ、関係の皆様方の御健勝を心からお祈り申し上げます。

終りに、本学の益々の隆盛と同窓会のご健勝とご活躍をお祈りします。

第二十一回 河野 晴也
二、元気に活躍している。妻、子供二人(女)、特にこれとゆうこともなく平凡にくらしています。

一、時折、学校及び教授、同窓会等の消息を知らせてもらいたい。
三、東京三菱製紙本社に大前君がいるので、時々お逢いして一パイやっている。
四、母校の発展、特に後輩の活躍を大いに期待する。
(中年に至り体力のおとろえを感じるようになって)

第二十二回 横田 興之助(幸右)

一、現況
父が昭和四〇年に死亡後自営業を継ぎ、現在に至っておりますが、名前も襲名し、横田幸右から横田興之助となっております。

第二十三回 北本 伸二

卒業して丁度二〇年になります。その間、毎年一回は催される同窓会にも一度も出席したことがなく、全く不肖の同窓生ともいへば、そうしたお世話をし下さる方々には誠に申し訳なく思っております。

しかし、新聞のスポーツ欄等で見ると母校の活躍や消息には、期待と励ましの念でみております。
母校の想い出は過ぎた日々々の郷愁にも似てなつかしく心の中に息づいており、最後に、母校の発展と同窓生のみなさんの御多幸をお祈りいたします。

第二十六回 松下 好孝

まずは「澗江」編集氏に、同窓会誌の編集、配布有難く、ご苦労のほど、深く感謝いたしました。
小生、地方都市の零細企業の同族会社役員として、営業から配達、事務にいたる全てに渡ってフル回転しています。特

が無くなり、いつも苦しい思いをしています。そのため、三期ボータスなして頑張っている。しかし、卒業早々に専ら倒産という人生経験に巡り会ったため、現在の苦しい時期も耐えられると確信しています。

第二十九回 藤原 茂夫

同期生の皆様、いかがお過ごしですか。卒業後、同窓会には一度だけ出席しましたが、その後御無沙汰しております。
在学時代は試験以外勉強もせず、あそびまわった頃をなつかしく思います。
就職当時は、先輩後輩がいなかったが現在では、私も含め経大卒業生が五名動めております。ときどき母校のことを語り毎日がなばっています。

最後に、母校の発展と同窓生各位の御活躍、御健康をお祈りいたします。

第三十一回 小久保 寿夫

近況
昭和四十年卒業後、現勤務先の名古屋市を本店とする中央相互銀行に入行し早や十二年過ぎました。その間、四カ店を経験し、現在は名古屋市の東部にある名東区内の現支店に勤務しています。現任所は名古屋市内への通勤ベッドタウンともいわれています春日井市にて、約一時間の通勤所要時間です。当行へは同窓生が余り入社しないので残念に思っています。同窓会名簿を入手し、友人等の勤務先、住所等が解り、そのために、名古屋市内勤務の先輩、同輩に連絡が取れ、十数年ぶりに元氣な姿で各々がガンバッテ活躍している事が知れた点の一つとしても、私には貴重な名簿となりました。

第三十一回 丸井 盛司

拝啓 小生の近況を伝えさせていただきます。
昭和四十年、母校の紹介で桃井工業へ入社、昭和四十三年倒産(この会社が今話題の安宅産業の下請工事をしていた)、同年、現在の協立機電工業(日立製作所特約店)施設部に入社、ビル関係の機器を販売している。この施設部というの、建築会社、設備工事会社を相手に商売をするのだが、なにせ思まれない部門である。上の方から順に予算をとって行くので、最後の我々の機器の予算

第三十一回 木村 敏克

一、私は現在造船業界で働く者の一人ですが、御承知の通り、この業界は不況で、あの景気の良かった時のおもかげは今どこへやら。しかし、私なりに頑張っておる次第です。
二、別に希望するという事はございませんが、お世話をし下さる皆様は厚くお礼申し上げます。
三、友人も、大阪にまた岡山に姫路、京都にと、バラバラになってしまいが、最近逢っていないので近況はわかりませんが、

に建築に関係するため、不況の影響をもろに受けて悪戦苦闘の毎日です。
そんな中であって、学生時代のクラブ活動(演劇研究部)から社会に出て、暫くは仕事の合間に地方の放送劇団に関係し、その後、当地の文学サークル集団の一員として十五年余になり、同人誌など出しています。万年文学青年も今年中には確実に四十代になるうとしています。仕事も本物、文事も本物になるうなど若きに賭けていたものの、いたづらに歳を重ねてどちらも未完成のまま。最近はお口の、すっかり仕事中心にならなくなって甲斐ない思いですが、本人は三十代前半の気力、体力で、それでも張りのある生活をしているつもりでいます。学生時代を特に、クラブ活動を通じて意義あるものとし、友人や先輩、後輩の多くを得ました。土地柄、時どき友人や先輩、後輩が立ち寄り、思い出話に花を咲かせます。土地柄といえ、かつて、喜田ゼミ(小生のゼミ)の旅行が当地になって、お世話したことがあります。また、劇研の合宿練習の世話をしたこともありましたが、いずれも、久しく以前のようになってしまいました。

先日、同輩のO(大阪NHK勤務)妹婿)から電話があった。偶然、浜本先生にお会いしたとか、小生のことも話題になったらしく、そういえば、浜本先生が経大の助手になられたばかりのころ、劇研の顧問に白羽の矢をたてて、お願いしたのが小生だったのを思い出します。土阪の機会とはとなく、長い間大学を訪れていません。「澗江」でその発展を心算して見えています。同窓会にも一度も出席していませんが、喜田先生、浜本先生、それに友人や劇研の先輩後輩との賀状の往復は今も続いています。

一時期、当地で昭和商、経大同窓会が二、三度続いたことがありますが、今は途絶えています。小生が卒業して十七、八年になるわけで、その後、大分県もかなりの同窓生が活躍していることだろうと思っています。

アメリシヨンの記

加藤 正秋(10回)

「アメリシヨン」という言葉がある。アメリカへちよつと立ち寄るといふ、古い古された言葉だが、小生も六月の二週間足らず、西海岸を中心に、こんなチャンスに恵まれた。いまさらという感じだが、これから機会を待つ同窓生もあるだろう。少しでもご参考になれば、こんな嬉しいことはない。

外国語

旅行前の心配といえませんがこの話し言葉だが、われわれ程度の語学力なら十分通用する。実際は単語を並べただけでも結構だ。疑問文、肯定文なんていう気づかいはまず不要。語尾を上げれば疑問、下げれば肯定と相手が判断してくれる。二日目、三日目と馴れるに従って助詞、助動詞の使い方も思いついてくるもの。ただ聞く時は、初めやや面くらうこ

とも少なくない。Water がワラになり、京都がキョロになる。要するに彼らは舌が長すぎて、言葉がまくれ上るのだと思えばよい。言葉がまくれ上ったような顔をする手は全くない。不審な顔をすれば何度でも、手まね、足まねで説明してくれる。旅行前にあわてて英会話の本を買う人も多いだろうが、同窓生諸兄にはこんな必要は全くない。(小生も羽田でポケット辞典を一冊買ったが、帰るまでついに一度も開かなかった)。
むしろ子供の英会話セットテープを聞くか、忙しい方は車の中でNHK第2かFMで米人の発音に耳を馴らしておく方がよほど効果的だ。ホテルはどの都市も案内式の高一流ホテルが多かったのと、奥村教授を思い出して「Would you mind」を連発してみた。現代英語では死

語に近いほどの丁寧ない方が、フロントでも食堂でも笑顔で応えてくれたものだ。英語と米語の違いなど難かしいことは考える必要もない。われわれが勉強したキングズ・イングリッシュで堂々と、胸を張ってやればよいとお奨めする。

都市バスに乗りこ

日本のタクシーでもお判りのようにこの料金はなかなかバカにできない。その上、一〇パーセントといわれるチップも必要だ。この点都市バスは大体八〇円程度)と安く、サンフランシスコのように三回まで乗り換えOKというところまである。地図と東西南北さえ判れば、行きたい方向のバスに飛び乗ればよいのだ。

バス停や車内で現地の米人と身近に接触できるのも、都市バス利用の楽しみの一つである。バス停で道案内を尋ねると、どこでも親切に、しかも嬉しそうに教えてくれる。一人に尋ねていると、中へ割って入って説明を繰り返してくれる中年婦人もいる。この中で三人に一人は、東京へ行ったことがある、マウント富士は美しかった、息子が兵隊で日本に駐留していたから他人とは思えない……など懐かしそうに語りかけてくる。

シスコで前日団体が訪れた金門橋を、もう一度カメラに収めたいと、ホテルの前からバスに初乗りした。車内で例によって若いアベックに先行を尋ねると、終点から五分歩きつぎのバスに乗れと教えてくれた。のんびり車外の風景を楽しんでいくと、突然向い側の中年男性が傍へきて、あのアベックは土地不案内だ、つぎのバス停で降りると、別系統のバスが来る、これに乗り換えれば、歩かなくてもOKだという。間違っても二五セントだと降りる準備をした。バスが停ったが一向扉が開かない。この時例の男が運転手に大声で「ちょっと待て」と叫び、両手でぐいっと扉を押してくれた。なんのことはない、あちらのバスは自動扉でな

かった。照れながら礼をいって降りると、この男性、今度は車窓からバスが消えるまで、大きな手をふってくれた。
米本土でもハワイでも、運転手は陽気な黒人が多いようだ。乗客と大声でしゃべり合ったり、口笛をふきながら人通りの多い街をぶつ飛びす。こんな運転手は乗る時に先行を告げておくと、車内中間こえるような大声で「ヘイ、ジャパニーズ、スズキサン、タナカサン、ネットワーク」と教えてくれる。
出発前、ほとんどの友人からアメリカは食べものがまずいと驚かされてきた。ところがである、ワラジのようなビフテキはアツアツでやわらかい。味がちょっと薄い感じだが、テーブルには必ず塩とキetchupマン醤油が置かれていられる。シスコには三ドルステーキといわれるこんなビフテキが、店頭でジュージューと焼かれている。カニもびつくりするほど安い。日本のカニの二倍もある大きなヤツが二ドルぐらいい。フィッシューマンズと呼ばれる波止場では、大ガマでゆであげられたカニをみんながおいしそうに立食している。観光客にはこの身だけアイスクリーム用の容器で売られているが、大体一ドルか五〇セント。果実もこの例外ではない。サクランボ、レモン、グレイプフルーツ、スイカ、桑の実など型も大きく、味もよい、その上値段がまたびつくり。家内とよく市場へ出掛けるという同行者は「半値以下は確実にものによつては三分の一ですなあ」と語っている。
ショッピングは楽しいが、これに泣かされる観光者も少なくない。のんびりしたい自由時間も、頼まれたメモ用紙に眼を血走らせ、飛び回る人が案外多いものだ。
免税品(ウイスキー二本とタバコ一パッケージ)以外はカサの張らないもの数品を決め、依頼品は最初からお断りぐらゐの気持ちで、旅を楽しむようおすすすめしたい。

一度逢って話したいと思っ... 四、編集部の皆様には、大変なお仕事だといつも思っております。今後共、より一層の御活躍をお祈り申し上げます。

上田ゼミ(昭和四十五年卒)の方、おられましたら御一報下さい。

第三十四回 池田 正勝

我がオホーソツの町にも春到来です。四季の変化はこのさし果ての地にあるも、飛び越すことなく毎年めぐってくるということは、実感として本当に自然の偉大さを感じ得ずにはおられません。

同窓の友や先輩、後輩の人たちのお付き合ひも皆無に等しい中であつて、昨年夏、最愛の恩師である田中健一先生の米網をうけたことは何よりもうれしく、また意義ある日々でした。

経大の仲間も機会あれば来遊下され、ゆつくり飲みながら語り合いたく願つております。

第三十六回 坂本 伸治

前略 編集御苦勞様です。自宅が東淀川区南江口町二一四三、通学した小学校が隣の大隅小学校です。から、いつの日か同窓会にも出席させて頂きます。

大学紛争のお陰で卒業できた事に感謝しています。 敬具

第三十九回 小 林 功

三月末に、それまで勤めた商社を退社し、広島から故郷の長野に戻ってきました。学生時代とサラリーマン生活と通算八年長野を離れていたため、当初は浦島太郎のような気分でしたが、早二カ月過ぎ、ようやく慣れてきました。

長野にお住まいの方々、また御連絡下さい。一度ゆつくり学生時代の事でも語りながら飲みませんか。

学 歌

作詞 故秋本吉郎(元本学教授) 作曲 柴田南雄(東京芸術大学教授)

一 大淀の

水は春ゆく ゆたかな春だ
芽立つ葦原 緑がしみる
この若さ 蒼空かけて
希望は明るい みなぎる学園
永遠の青春 大阪経済大学
大阪

二 大樟の

蔭は裕々 夏風そよぐ
学徒師弟が 幹負ひもちて
諸汗に 確つかと植えた 融和の象徴
繁れ自由の 花さく学園
大阪 大阪経済大学

三 そびえたつ

白亜の殿堂 秋空高い
澄んだ心に 鐘なりわたる
晴れ空だ ひらく真理の 扉につどふ
面はかがやく 求理の学園
大阪 大阪経済大学

四 濛標

世界の商都の 入船出般
水先みちびく 経済実践
前途はるか 氷る潮路も 乗切る気力だ
自由で揺がぬ 自治立つ学園
大阪 大阪経済大学

澱江発行についてお願い

発行部数の増加と諸物価高騰をご理解いただき、振替用紙を同封いたしましたのでご協力下さい。
◇同窓会への寄付 一口 一、〇〇〇円

①毎日仕事におかれて余裕のない生活を送っています。そんな時、学生時代の友人に会ったりすると心がくつろぎます。
②会員の職業をくわしく知りたいと思ひます。
③大学の同窓生意識が社会において強いことを痛感しています。
④大学野球等がある時は、もっと積極的に動員をかけてもらいたいと思ひます。

第四十二回 金谷 英男

昨年の暮に伊勢(故郷)に帰り、近くの病院(慶応義塾大学伊勢慶応病院医事課)に勤務しております。転職してまだ半年あまりですが、何と云っても生まれ故郷、職場にはなじみよく、みんなとスポーツ等をまじえながら懇親につとめております。仕事の方ですが、早速「医事部門の合理化」について研究しようとして、資料及び諸病院の見学等を重ね張切っております。このような研究においても、大学で学んだ基礎力(小論文、レポート収集、文献資料の集め方等)が大いに役立ち、学生時代がなつかしく思えます。

当地伊勢志摩は、海女と真珠のふるさとである英虞湾、賢島などがあり、これから夏にかけて、海水浴、キャンプ等と楽しい季節を迎え、我が里、伊勢志摩にて大いに楽しむと思っております。
OBの皆様も機会があれば、ぜひ当地へお立寄り、伊勢志摩のよさを充分楽しんで下さい。

第四十一回 村 井 晃

卒業して数年がたつと、結婚、転職等

逍 遙 歌

作詩 中村 行男 作曲 松川 圭一

(一) 此処城北に迎えたる

紺碧淀の春の夢
惜春の賦のたよえは
薫風静かに流れ来て
逝きし苦節の十余年
歴史は吾等に教うなり

(五) 乱る金剛枯風の

叫ぶ野嵐粉吹雪
緑定石に佇ずめば
無言に教うる朔風の
肌いきびしき鞭なれど
懐古楽しや語り草

(二) 水やにごれる人の世に

真理求めて遊ぶ子の
友愛久遠に変わらまじ
汝が悲しみに我は泣き
吾が喜びに君や舞う
惜みて励め我が春を

(六) 霜ふみ通うこの朝

暮る、易きやこの夕
真冬寒波の寄せ来てや
淡き光のいざないに
汝が故郷を偲ぶれば
鐘の音さびし瑞光寺

(三) 集いの庭を共にせし

我が学舎の乙女子は
愁の時は過ぎ去りて
理想の遠地にひたぶるに
幸を求めて馳けるとや
感激新たな此の曲に

(七) 小鳥が森に歌うとも

小羊野辺にたわむとも
さすらい旅の此の世には
花びら風に待たずして
春や心の乙女子は
はかなき恋に泣くとかや

(四) 虫の音すだく秋来れば

小川こよなくさびた、え
こち吹く風に花なびき
自然したいて逍遙の
尋ぬる途は遠くして
薙露人生はかなしや

(八) 想いめぐりて尽きぬ時

緑が原に人訪えば
落葉か、れる語らいに
愁憂の声今はなく
新たに目醒むる者のみの
微笑は花に映ずなり

澱 江 第 13 号
昭和52年10月25日発行
編集者 山中 良 夫
発行所 大阪経済大学同窓会
印刷所 共成社印刷株式会社



昭和52年10月

同窓生各位

昭和52年度 大阪経済大学同窓会総会ご案内

なつかしい恩師をかこんで、学生時代にか
えって大いに飲み、だべろうではありませんか。
旧友をさそって母校のキャンパスに集ろう！

記

日時 昭和52年11月3日(文化の日)

A.M.11:30~(受付11:00)

場所 総会会場 C館(4F)

懇親会会場 本館(3F)

(立食パーティを中心に歓談いたしまし
よう)

会費 3,000円(受付 東表門横)

◎新卒者は半額

—はがきでのご案内はいたしません—